

Ⅲ 自由回答一覽

(郵送調査用)

問2-1 補問1 (問2-1で1「はい」をお選びの方に)

あなたと、がんになられた方とのご関係について、当てはまるものをお選びください。
(〇はいくつでも)

「7. その他」の記入内容 (80件) ※重複回答はまとめて記載

- | | | |
|-------------|------------|----------------|
| ・義父 (18件) | ・いとこ (4件) | ・いとこ、弟 |
| ・おば (14件) | ・嫁 (3件) | ・義理のおば (友人の子供) |
| ・義母 (9件) | ・親類 (2件) | ・義弟 |
| ・おじ (7件) | ・父方、いとこ、おば | ・義姉妹 |
| ・義親 (4件) | ・おば、甥 | ・義父と姉 |
| ・義姉 (4件) | ・大叔父 | ・義祖母 |
| ・おじ、おば (4件) | ・親族、おじ | ・義兄 |

問3-1 補問1 (問3-1で1「言葉を知っていて、その内容も知っている」、2「言葉は知っているが、その内容は知らない」をお選びの方に)

「緩和ケア」という言葉は、最初に何でお知りになりましたか。(〇は1つ)

「9. その他」の記入内容 (52件) ※重複回答はまとめて記載

- | | |
|--------------------------|------------------------|
| ・本 (5件) | ・家族 |
| ・マンガ「ブラックジャックによろしく」 (2件) | ・介護士、大学の授業 |
| ・覚えていない (2件) | ・介護福祉士なので |
| ・学校 (2件) | ・学校の授業 |
| ・大学の講義 (2件) | ・義兄が自宅でお世話になったから |
| ・いつの間にか、なんとなく (以下1件) | ・仕事=生保 |
| ・おばがかかった | ・仕事で |
| ・がんに関する書籍 | ・仕事関係 |
| ・がんの娘がホスピス病院に入院していた | ・私は医療従事者です |
| ・ケアマネをしている仕事上 | ・主人の闘病中の病院で |
| ・なんとなく | ・書籍 |
| ・ばくぜんと耳にはいつてきた。 | ・小説 |
| ・マンガ | ・職業上 |
| ・以前、介護福祉士として病院で働いていた | ・生命保険 |
| ・医薬品に関する職業の為 | ・前、製薬会社勤務 |
| ・医療関係勤務者なので | ・大学の授業 |
| ・医療機器を納品する時 | ・地域で実施している所があるため |
| ・医療事務の仕事なので | ・闘病記などの本他 |
| ・映画 | ・日本尊厳死協会の催し物 |
| ・栄養士 | ・病院で |
| ・何時の間にか | ・本「緩和ケア」 |
| ・嫁の叔母がホスピスで死去 | ・鍼灸・指圧マッサージ師なので勉強しました。 |

問3-3 補問1 (問3-3で1「はい」をお選びの方に)

「緩和ケア」が受けられると思う場所はどこですか。(〇はいくつでも)

「6. その他」の記入内容(4件)

- ・医療機関の中でもある所とない所があると思う
- ・まだ受けられる医療機関は限定されている
- ・大学病院のような大病院
- ・ペイン外来

問4-1 あなたが「緩和ケア」について知りたい情報は何か。(〇はいくつでも)

「10. その他」の記入内容(46件)

- ・保検が適用するか
- ・病気になっていないのでピンとこないです…。
- ・緩和ケアが必要な事ならNHKで放送してほしい
- ・ガンにならない情報
- ・電話の相談窓口、家族への説明、フォローその教育
- ・情報は限りなく必要と考えます。→従って相談窓口(w e b含む)が必要と思います。
- ・公的補助があるのか
- ・ケアを受けた人の変化
- ・乳ガンになりましたが、身体の補整具やかつら等、患者の会など
- ・受け方・申し込み方法・状況など
- ・ほとんどに〇をつけて、しまいました。やはり不安なことについてはしっかり説明を受けたいし情報がほしい
- ・食事療養
- ・終末期自宅ホスピスについて
- ・ケアされる方の教育
- ・問3-2で「病状に対するケア」とあるが、それは医者の薬物治療を除く、患者の「がん」に対する恐怖心を取除く精神療法なのか?
- ・家族(がんになった人の)のケアについて
- ・病名を告げられた時点で死の覚悟の意識が働くと思う
- ・がん告知(本人自身)してから時期も本人の意志を望む。
- ・がんの患者さんが必要としているものなのか?新たな実験的医療なのか?医療を行なう側に必要なものなのか?その全てといわれるのか?
- ・病院(病室)についている設備なども
- ・緩和ケアとは何かを知りたい
- ・本人以外の(特に家族)人が本人に対する接し方
- ・全部です
- ・家族の心、体のケアの情報
- ・完治しないと意味がないのでは…

- ・緩和ケアと言うモノについて
- ・今の所考えたことありません
- ・義父ががんと宣告されてからかなりのつらい経験があった。良いと思うものは何でも考えて実行しようと思ったが、なかなかうまくいかなかった。専任の「緩和ケア」の方がひとりついてくれるだけで助かる。上記のすべてにまるをつけました。
- ・緩和ケアとはどう言った内容か知りたい。
- ・緩和ケアとは何か？
- ・がんや緩和ケアなどの治療への専門的な知識や技術をもつ医師や看護師・薬剤師のいる施設
- ・緩和ケアの拠置内容とその効果
- ・そもそもなぜ緩和ケアがとりあげられる？
- ・在宅緩和ケアの診療費はどれ位かかるのか
- ・ガンの告知が必要である為に本人に言いにくいです。
- ・今のところががんになったりしたくないので考えたくない
- ・体験者の緩和ケアの様子や利点、欠点
- ・同じ病を持つ人同士のネットワークなどの窓口
- ・患者さんとの接し方と言葉の選び方、また実際の痛みはどのようなものかという具体的な感覚
- ・具体的な場所（施設を知りたい）
- ・食事で進行するガンをおくらす方法はありますか。どんな食品ですか。
- ・ほとんど全部いろいろおしえていただきたい
- ・がん以外の病気にもあればと思うが！！
- ・患者の家族が心身のケアを受けられる所があるのか
- ・家族としての対処方法
- ・家族の対処方法

問4-2 「緩和ケア」についての情報を得る手段として、利用しやすいと思うものは何ですか。
(〇はいくつでも)

「13. その他」の記入内容（16件）

- ・〇〇老人クラブの会合で説明
 - ・でんわ
 - ・ハガキ
 - ・NPO（患者）
 - ・マンガ
 - ・パンフレット
 - ・ロコミ
 - ・電車の吊広告
 - ・企業指導
 - ・携帯電話メール
 - ・病院や相談室でのパンフレット配布
 - ・看者会のような集まり
 - ・同じ病を持つ人同士のネットワーク
 - ・気軽に行ける場所（専門の相談者が居る）
 - ・電話相談
- ・薬局などで知識を得られるようにすれば、ききやすいのではないか。というのも患者さんは医師や急しそうな看護師にはききづらいことでも、薬剤師には質問されるという話をよく耳にするから。それに、実際病気になった人のほうが、こういう問題を身近に感じるものであるから、より役立つと思う。

問6-1 補問1 (問6-1で1「はい」をお選びの方に)

「オレンジバルーンプロジェクト」については、最初に何でお知りになりましたか。
(○は1つ)

「9. その他」の記入内容(5件)

- ・気球に癌撲滅のアドバルーン黄色打上げて宣伝する
- ・私の家では、看護の仕事をして居る者が3人も居ますから何となく知りました
- ・学校の授業
- ・ラヂオ波治療中
- ・学校の講議で

問8 緩和ケアを普及するための事業「オレンジバルーンプロジェクト」に期待されることがあればご記入ください。

記入内容(611件)

- ・緩和= (イコール) ホスピスのような、みんな同じイメージがあります。いたみをとることともうすぐ死んでしまうことのはっきりした違いがわかれば癌患者にも話しやすいと思います
- ・ますます広めていただけることを心から願います。自分が応援できることがあればさせていただきたいと思います
- ・「オレンジバルーンプロジェクト」という言葉を、今回初めて聞きました。ドラマで麻薬パッチを貼ってるのを見ますが、それぐらいしか『ガン』に対しての知識がないので…。一定の病気だけでなく他にも苦しむ病気はたくさんあると思うので、がんにのみに手をさしのべるのも何か抵抗がありますが…。わが国は病気に多数決があるような気がします。小さいから…年寄りだから…たくさんいるから…等と…平等な保障を望みます。小さな病気でも、今後一生薬を手放すことができない病気はたくさんあると思います。記事で言えば〇〇は、甲状腺の病気が多いと思いますよ。私も、ずっと血液検査しながら、薬をのみつづけないといけない状況なのに医療費は継続治療?とかいうこうもくで料金請求するシステムのような感じ。おかしい。糖尿病でも、高い治りよう費、薬代がかかる訳だし…。費用面で、今後の不安はたくさんあると思うので、病気の理由がわからない人にも、手をさしのべてほしいと思いますけどね。長期療養に関して、易しい日本のシステムになってほしい
- ・知らない人が、まだ多いと思うのでTVなどを通じて情報を広めて頂きたいと思います。
- ・ひとりでも多くの人達に知ってもらい、理解を得られるように「オレンジバルーンプロジェクト」の存在を広めてほしいと思います
- ・プロジェクトが全国的に知られ国の目的が達せられるように期待しております
- ・このような事業があることを知って、もし、自分がガンになったとしても、少し気が楽になるような気がします。どんな人でも、より良く生活できるようにこれからも頑張ってもらって事業をすすめて下さい。
- ・父はこうとう癌母は胃癌で亡くなりましたので痛みがよくわかります
- ・緩和ケアの受け入れがまだまだ少ない様に思います。もっと身近に受け入れられる場所が増えればいいなと思います。

- ・医療費がかかるがん治療ですので、緩和ケアも健康保険が使えるといいのになと思う。具体的に もっとアピールして（マスコミ利用）頑張ってください。
- ・最後に苦痛なく一生を終える事が今一番の望みです。望む者すべてが叶う様御努力下さい。
- ・一つの事業を普及するためにはPRや宣伝、報告等する事には大変な工数や金がかかりますが、一番金のかからない方法を考えて国民に知らせる事が大切ではないですが、知って悪い事は一つもないと思います。全国のシルバークラブを活用したらどうですか
- ・緩和ケアをもっと市民に知らせる必要がある。
- ・ガン患者さんにとって必要なことはわかります。その患者さんを看病したりする家族の者にも緩和ケアは必要だと思います。そんなこともプロジェクトに含めて、考えていってほしいです。終末期の家族がいると、支えてくれる人がいないと気持ちが続きません
- ・〇〇新聞の〇〇といつも読んでいます。亡くなる方の1/3はガンとうかがっています。将来生きていけばガンになる可能性は大だと思えます。一般の市民が互いに協力し合って生きていく為に緩和ケアを多くの人に知らせて考える機会をどう協力できるかと市民のものにしたらいと思う
- ・誰でもがんになる可能性はあると思うので、もっと緩和ケアについて、緩和ケアの内容について 広知していただけたら良いと思います。
- ・内容が良く理解していないので、何とも言えません。
- ・ガン患者自身が望んでも医師の理解が（同意が）えられず、またそこで悩むというイメージがある。もっと安心して「緩和ケア」を選択できる環境をととのえてほしい
- ・新しい言葉が出る為何の勉強もしらないので困っている
- ・アンケートと言われても緩和ケアという意味は何ぞやと説明してわかりやすく話してから始まらないとわかりませんと近所の方が言っていましたけど私もちょぴりその方です。
- ・がんは年代を問わず、発症する所が怖い。出来る限り早い時期での活動実施と普及を期待する。
- ・若い世代の人達の多くは、がんに対する関心か知識が乏しい為、家族ががんと診断されて初めて治療法かケアの方法を知る事になるので、「緩和ケア」について興味を持つことができるよう、TVCMか医療機関での広告、都市部でのPRイベントなど、親しみやすくわかりやすい説明があれば少しずついろんな世代の方達にも浸透していくと思えます。
- ・ガンの治療を受けた方が、薬剤の副作用で大変苦しみました。治療のための薬剤を入れることで正常な臓器の弱体につながり、薬剤以外の治療を求めて奔走したようでした。私は体に変化があった時は、まず玄米菜食・生姜湿布などで体を整えるようにしています。家には飲み薬はありません。夫も子供も大変健康で“緩和ケア”という言葉さえ知りませんでした。が、いざガンになったら、病院にたよることになりますので、ガンの初期のうちに身心健康でいられるケアを知りたいと思います。
- ・「オレンジバルーンプロジェクト」を今回はじめて知りましたので、これから気をつけて勉強したいと思います。
- ・家族にも妹にもガンになって今治療中ですがガン細胞を撲滅して少しでも元気で命ながらえることが出来るように薬や化学療法の研究して頂きたく切にお願い致します
- ・93才の母を自宅で10年、本人は静かに旅立ちました。先生、ヘルパー様方のお陰です。何事も本人が安心出来るまで説明を受けることが出来ました。この様に心の中の不安な心、身体をいためます。何の病気でも、何人でも知ることが出来る様に普及に心より気体致します。御苦労様でございます。よろしくお願い致します。
- ・人が死ぬ原因の1/3は「がん」だともっと緩和ケアが進んで苦しみを取ってほしいと思

う。

- ・今回、このアンケートを見て初めて、緩和ケアなることを知りました。ガンなどの病気以外でも、人間である以上、心のケア、精神的なケアは必要だし、医師や看護師は、一見やってくれそうに見えても、なかなかできないと思います。世の中、サラリーマン化しているので。韓国のドラマチャングムや、日本の二宮金次郎の「仁」の精神で、あなた方も取り組んで下さい。決してサラリーマン根性だけは持たないで。
- ・もっと身近になるよう普及に期待しています。よろしくお願いします。
- ・オレンジバルーンプロジェクトの言葉などは、初めての事なので知りませんが此の度のアンケートは、色々な知る為にも約に立てれば良いと思います
- ・昨年3月に肝ぞうガンで肝臓を半分切り取り、1ヶ月の入院で無事退院し現在は元気に暮していますが、本日の様な質問を頂いても全く判りません。あしからずお許しの程を
- ・主人が12年度ガンで苦しんできましたが最後の9ヶ月自宅介護で亡くなりました。始めは病院で麻薬をいただいていたのですが、病院生活はもう嫌だと自宅介護を致しました。近くの診療所の先生が引き続き、全身のガンも自分でのむ量をコントロールしながら苦しくていつもにこやかに私に接し、天に召されていきました。
- ・人は病気をすると不安になるのでケアをする事はとても良い事だと思います。緩和ケアによって一人でも多くの患者さんを救えたら良いと思います。
- ・本人や家族の不安を取り除き、希望を与えるものであるよう、期待したい。
- ・がんで亡なる方が多いなかその人らしく生活できるように少しでも、その方に寄りそってけるように学んでいきたい。今、介護職について働いていますが、私でも出来ることはと思っています
- ・闘病中の方々が勇気付き、安心して療養できるように、経済的なアドバイス等も含む、QOL期待をいたします。
- ・色々なグループの中でも、この言葉を聞くことがありません。良い事業と思いますので、もっとPRをして下さい。
- ・がん治療、がんの撲滅のため、積極的な活動を推進されることを期待したい。
- ・ピンクリボン＝乳がん撲滅というのは気が付いたら知っていた。「オレンジバルーンプロジェクト」という言葉は今回初めて知ったけど、長たらくして、何日かしたら忘れそう…。オレンジ〇〇…ともっと短縮した言葉で、タレント起用で多くのメディアを利用して広く知らしめて欲しい。自分になったら他人から、回りの他人にいたら自分がしてあげられることを是非教えてもらいたいです。
- ・いたづらに生命を永らえることは得策でないと思う。
- ・テレビのCMで放送してください。
- ・私自身、医療職に就いているものの、「オレンジバルーンプロジェクト」の事業について、あまり知らなかったもので、これからは、緩和ケアをもう少し勉強してみて、この事業にも理解を深めていきたいと思っています。緩和ケアは、がんの患者さんにとって、とても大切なケアだと思っています。患者さんが安心して、治療にのぞめるように協力したいです。
- ・がん患者はがんの症状以上に精神的に心が病んでいると思う。がんという現象にとらわれ過ぎず実相完全円満の自分を見つめることによってきせきの様な状態も起り得ることをがん患者に話すことも必要だと思います。心を明るく笑いのある毎日の生活をして行くことが、(細胞活性化)の一因にもなるとは思いますが…。
- ・「緩和ケア」認識度調査は大変役立つと思います。

- ・「オレンジバルーンプロジェクト」がある事をもっと新聞テレビ等で広くみんなが知る機会を作る事が大切と思う
- ・たとえ、がんで死に直面することになっても、人生の生活の質をなるべく落とさずに過ごせる事は、本人にとっても、周囲の者にとっても大切なことと考えます。しかし、以前に調べた〇〇病院のホスピスは、私などが使うことのできない高額の特等スイートみたいな物でした。緩和ケアをもっと、あたりまえのものとして普及してくれることを望んでいます。
- ・緩和ケア普及をもっと進めて下さい。身体だけでなく、心のケアも対応していただけるのは素晴らしいと思います。日本では医療用麻薬の使用は非常に少ないと聞いています。もっと普通に使用できるようになればと思います
- ・オレンジバルーンプロジェクトと言う言葉を初めて知った。期待する前に内容が分からない。もっと新聞などで名称、内容を広めて欲しい。
- ・がんによるきょうふはあるので緩和ケアを増々発展させてほしい。誰でもふつうにうけられるようになるとういと思う。
- ・もっと広く事業内容・活動の紹介及び内容を新聞&テレビ等のマスコミを通じて取り上げることがを希望します。
- ・オレンジバルーンプロジェクトについてのことが分かりませんから記入することは、ありません。
- ・私は寿命が短くなるとしても、緩和ケアは必要だと思います。私の父がガンで亡くなるまで、興味がありませんでしたが、今は、とても大切な事だと思います。ぜひとも普及してもらいたいです。
- ・有る事も知りません
- ・高齢者（→叔母の場合）にはがんは治らないと思ってがんと診断された時に心の病気になり外科的には治っても心のケアがうまくいかなかった。緩和ケアをもっと、もっと一般に普及する様テレビなどで高齢者にも解りやすく知る事が出来るとういと思います。これからのこと期待しています
- ・正しい情報を伝えることが大切だと思います。たとえ肉体は病に犯されようと心が前向きな人はきっと、病も良くなる確率は高くなるだろうと思います。前向きでいるためにも正しい情報は大切ですから。
- ・緩和ケアという言葉は知っていましたが、普及事業があることを知らなかったので世間の認知度が低いような気がします。もっとメディアを通じて広く知れ渡るようにし、医療関係者を介して全てのガン患者が緩和ケアを受けられるようなシステムを確立して欲しいです。
- ・情報があまり知られていません。是非受けたいです。心のケアが必要です。家族も大変ですしもっともっと広めてほしい
- ・少しでも苦しんでいる人が減少することを期待します
- ・緩和ケア Conference の拡大（ボランティアも含め）を求める。
- ・もっとテレビとか使ってPRすべき（アンケートの内容がわかりませんでした。）
- ・緩和ケアを普及するため病院を多くつくり、病床をふやしてほしい。
- ・その言葉を知りません
- ・緩和ケアを対応出来る医療機関が少ない。充実される事を望みます。
- ・新聞は万人が目を通すもの。新聞に取りあげ定期的に載せるといいと思う。年輩の人は疼痛コントロール＝薬にたよりたくない、頼らせたくないとの思いが強い。そんな「だんかい世代」から情報を流さないとなかなかしんとうしないと思う。
- ・自分は、無知なので存在すら知らず…さらなる普及を願います。

- ・組織を充実し、税金のムダにならぬ様進めて下さい。
- ・肺ガンと診断され、3ヵ月で父は他界しました。痛みと戦っている父の背中を母がさすっていました。緩和ケアが家庭でできると良いのですが
- ・どんな人も、簡単に思いやりのある形で経済的にも無理なく、受けることが出来、正しい知識をすべての人に行き渡るようにしていただきたいと思います。
- ・期待しています
- ・医療用麻薬の使用において、血中濃度とその効果が適切に管理（モニター）されているのか？薬剤の使用方法について、具体的なガイドラインがあるのでしょうか
- ・もっと世間一般に広報活動をして広くなかみが知られる様にしてほしいです
- ・乳がんのピンクリボンは知っていましたが、オレンジバルーンプロジェクトは知りませんでした。ピンクリボン同様、オレンジバルーンプロジェクトも普及すると思います。
- ・個々の状況によって、メディアを変え、あらゆる痛み、心の痛み、できれば周囲の痛みまでとれるような、内容とシステムをつかって欲しい
- ・がんを宣告された時、緩和ケアを含めて十分に説明されているのでしょうか。「オレンジバルーンプロジェクト」が、看者に医者に代ってくわしく説明してくれると安心すると思います。どうも医者の説明だけでは不安です。
- ・最近、身近かで「がん」になる人が多くなっています。特にこころの悩みをかかえている人がいるので、「緩和ケア」病棟がふえるのとそういう施設があるという広報（新聞等で）をふやしてほしい。（今は終末期が主になっているので、もっと早くの人でも受けられるようになってほしい）。緩和ケア施設が少なすぎると思います
- ・緩和ケアという言葉を初めて聞きましたが、このアンケートを答えても、「症状（こころの痛みも含む）に対するケアです。」としか書かれていないのでさっぱり分かりません。まずは、どういう活動をしているのか？資金は、どこから出ているのか？ケアを受けるのにお金がかかるのか？を具体的に説明できるようにしてから広めて下さい。
- ・国のがん対策でいって事は、税が使われているとゆう事なんですか？出来るだけ、色々な人に、どんな活動をしているのかを知ってもらって下さい。そして、緩和ケアが受けれる施設を普及に近づけるようにと願います。
- ・がんを知って自殺する人もおられるので、そんな事がない様になったらいいと思います
- ・どこの医療機関であっても緩和ケアを行なえるような組織改善（財政的な補助等）をしていただけるようおねがいします
- ・親が大腸ガンでしたが、初期だったこと+本人がまったく気にしてなかった（ガンだってこと）ので「緩和ケア」に関することを知る機会がありませんでした。緩和ケアが何なのか…よく分かりませんが、ガンで苦しんだり悲しんだりしている人達の助けになる事なら、もっと普及してほしいです。
- ・がんと診断されたショックで症状が重たくなることがあるそうですが、気持ち、心のケアとあわせて、東洋医学やカウンセリングをもっと一般に広く使われるようになれば、がんと共に生きる方法の選択しが増えると思います。
- ・今回初めてこの事を知りました。もっと多くの人に知らせてほしいと思う
- ・三十年程前のこと、胃の不調を訴えた祖父が病院で診てもらったときには既に末期であった。気丈だった祖父は大量の吐血で亡くなるまで痛みを押し殺していた。その時、痛みを和らげる方法はないものかと思ったものである。
- ・強い痛みを併う疾患はガンだけではないと思う。麻薬などによる緩和ケアをガンにひっつけてくる

痛みのある疾患に対しても受けられるようにして欲しい

- ・緩和ケアの内容を知っていると思っていましたが、細かい所まで理解（認識）できていない事がわかりました。もっと目にふれる仕方でも緩和ケアに関する情報を提供して頂きたいです。
- ・正しい情報普及により、がんの苦痛（痛み：身体、心）から救われる患者さん、及び家族が多くいると思います。積極的活動をお願い致します。
- ・私も糖尿病でインシュリン打っておりますが、お蔭様で癌に縁がなく医師に云われた、運動4食事療法3酒タバコ3規約を守ること。老骨に鞭打って頑張っています（暴飲暴食）
- ・知ってる人が少ないならばプロジェクトも不本意な結果で終わってしまうのではないのでしょうか？メディアなどを通じて、たくさんの人に知ってもらった方がいいのでは？と思います。
- ・ガンと告知された時、本人はなおの事、家族も又言葉に出来ない。いろいろな不安があります。そんな不安が身体の痛みになり、心の痛みにもなると思いますので、さりげなく、多くの所で目にしたり耳にしたり出来る様な活動をしていって下さい。
- ・オレンジバルーンプロジェクトという名称を始めて知りました。がん患者が『一人の殻』にとじこまらない様心の治療を望む
- ・今現在家族健康であります、いつがんになるかわかりません。そのような時、緩和ケアの事を知っていれば家族の心のケアになると思います。テレビとかで放映すれば医療関係者以外の人にも知って頂けるのではと思います。
- ・身近にがんの患者がいなくて、情報に接する機会があまりない。テレビ、新聞、ラジオ等で、とり上げてもらえると、もっと認知されると思います。
- ・緩和ケアを受けることによって、最後安らかに回りの人達めいわくをかける事無く、生活送れたらいいですね。頑張ってください。
- ・「オレンジバルーンプロジェクト」を知りませんでした。もっと多くの人に知ってもらうための活動をして頂きたいと思う。
- ・不安や迷いが少しでも無くなる、正確な情報をテレビ等で、伝えてほしいです。
- ・新聞、TV、インターネット、病院等で広報活動を積極的に行う事。
- ・どんな人も気軽に相談でき、緩和ケアを受けるかどうかを自由に選択できるようになったらいいと思う。ガンは、病気の痛みや苦しみはもちろんであるが、それ以上に精神的なつらさや恐怖心が何よりも大きい。身近でささえる家族も、精神的につらい。病気になった時に、その後の人生をどう生きるかが一番の課題と思う。いつ自分にそんな時がくるか、家族にくるかわからない。力になってもらえる事を希望しています。
- ・がんの痛みをコントロールする事を病院は積極的に行っていないように思います。緩和ケアを普及するプロジェクトには、医療を受ける側だけでなく、行う側へのアプローチも、もっと必要ではないかと思います。
- ・解らない。今までガンについての関心が薄かったのでアンケートへの答えもはっきりしないことが多かった。
- ・ガンと診断されると本人は勿論の事家族や周りの者も心配、動揺、不安でどうしたらよいか解らなくなると思うので緩和ケアの普及はとてありがたいと思うので、世の中に広く知らせてほしい。気楽に利用出来るものであってほしい。
- ・もう老々人なので発病したら程々にして静かに眠らせてほしい
- ・緩和ケアと云う言葉は初めて知りました。ガンの治療方法は相当改善されているのは承知しておりますが、やはり恐怖であります
- ・このアンケートを頂いて、初めてネットで「緩和ケア」を検索し、癌に伴う苦痛の解放が快適ラ

イフと延命につながる医薬療法の一つと知りました。今の所健全に暮していますが、体内の癌爆弾がいつ産声をあげるか判りません。貴重なお知らせ有難うございました。

- ・ 1人1人の命を大切に！その人らしく全うに生きるための援助が個人の経済力を問わず行なわれることを希望します。
- ・ オレンジブループロジェクト自体はまだ全然知られていないと思うので、まずはそういうプロジェクトがあるのだということを広めてほしい。がん告知＝死というイメージを変えられるようなプロジェクトになってほしい。「がん告知→緩和ケアによるQOL維持・向上」
- ・ 主人の胃がんで2/3切除したのが昨年10月で術後1年検診で腸の検査をする様にといわれ、12月に行うのですが現在気持的にショックの用で大変です。そんな時の緩和ケアをと感じます。
- ・ 景色の良い施設で終末医療を受けて天命を待つ。
- ・ このプロジェクトの活動が、自分の住む、いかなるところでなされているか全く分らない。目的が素晴らしいだけに、その普及に一段と努力してほしい。
- ・ どんな人でも、簡単に質問ができて、ケアが受けられ、安心して治療に専念でき、人生が最後まで、おくられることを願います。今が心配ですね。高齢になっていくので、すばらしい、プロジェクトを期待しています。
- ・ 緩和ケアと言ふ言葉は全然知らない。私は今から4年位前にゼンリツセンがんになり手術しましたが今現在結果良好です。3ヶ月に1回血液の検査を受けていますが良好でございます。〇〇県〇〇病院で手術したのですが今は個人病院に行っており居ります。私と同時に手術した人は今後病院に来なくても良いと言ふことですが個人病院は出来ないもののでしょうか。薬も飲んでいません
- ・ 私は15年前胃癌で胃を全摘しました。たまたま風邪で病院に行った時、日頃係り付けの先生に一度は胃カメラぐらいのんでみる事を勧められそれで、本当に初期の癌を見つけてもらい、内側に広がる癌で用心に用心を重ね全摘しました。その後、抗癌剤も投与する事なく、末だに少しはの貧血とダンピング症状に付合わされてはいるものの、4・5ヶ月に1回の定期検査をつづけて、元気に生活しています。現在身近かに相談する係り付けの医師などみつきりません。医療費は高くなるばかり、初期で見つかれば確実に治るのです。医学は進んでも、身近かでケアするドクター不足では改善も出来ません。期待します。
- ・ 誤解や先入観にとらわれず、正しい情報を発信して必要とする人々に提供し、QOLを高いレベルで維持できる事業であることに期待したい
- ・ 世の中の周知が必要（ピンクリボンの様に）。また費用についても国からの補助金を受け、患者の負担を減らして多くの人を受けられるように
- ・ 情報をもう少し広げてほしいと思います。
- ・ テレビでの広報や、市の広報誌などに、日常にもっと広報活動で知らしめるよう期待したい。
- ・ ぜひ、緩和ケアして下さい。20年前姉は乳ガンで終末期のみだけでお願いしたい。
- ・ 身近で容易に受けることのできるシステム作り
- ・ 薬剤投与が多くなると患者自身が正常な判断が不可能となる恐れがあり不必要な延命治療につながると思われる
- ・ 現状では、がんの末期になってから「緩和ケア」について聞かされる事が、ほとんどだと感じている。できれば、がんと診断された時点で、詳しく説明していただけるような環境を整えてほしいと思う。
- ・ とても良い活動だと思いますが高額にならないか不安。保健はきくのか？知らないだけに良くわからない
- ・ 緩和ケアをもっと良く知りたい。

- ・「オレンジバルーンプロジェクト」の存在すら（若い方は特に）知らない人もたくさんいると思うので緩和ケアを普及するためにもその活動をどんどん身近なところから増々、ひろげて行って欲しいです。
- ・緩和ケアはよくわかりません。けれど、少しでも患者の痛みが押えられるのなら、使う事はしかたないと思う。ケアに関しては、患者本人はともかく、家族にもしてほしい。（患者を）支える事は…どう接すればいいかむつかしいので
- ・今後、緩和ケアは「ガン」だけではなく、全ての病いに適要できる様になってもらいたいです。
- ・本人及びに家族への精神的ケア。最善（最良）の治療推進とがんの早期発見の為の事業推進。医療費負担の軽減アドバイス（家族への）
- ・緩和ケアが普及することを望む。
- ・オレンジバルーンプロジェクトなる言葉を聞いたことがありません。もっと積極的に広報すべきと思います。緩和ケアはだれもが受ける可能性があることですので
- ・お金がかかるかもしれないけど、メディアでみんなに知らせたらいいかと思います
- ・どんなにすばらしい技術や知識も、それを扱う人によって、プラスにもマイナスにもなると思います。最終的に、人だと思えます。
- ・まだ知名度が低いと思うので、より幅広く知られるよう活動して頂きたいです。
- ・私が住んでいる所には緩和ケアを受けれる病院とかが少ないのではないかなあと思っています。知っている所は3市しかなく、もし私がガンになり、利用したくても出来ないんだろうと思っています。地元の新聞に緩和ケアの施設の先生のコラムが載っているのを読んでいて『こんな先生にあえたらいいのに』と思うことがあります。〇〇県には病院も少ないので、それ以前の問題なのかもしれません。
- ・一般の人がもっと緩和ケアを知ってもらえるよう啓発活動を進めてほしい
- ・私自身、まだ病気をしたことがないのですが、病気になった不安感、特に痛みとの戦いを想像すると緩和ケアをより充実させて行ってほしい。
- ・「オレンジバルーンプロジェクト」と云う活動がある事が一般的に知られてないと思います。今後広く広報等の活動をよろしくお願い致します
- ・其のオレンジバルーンプロジェクトと言ふ言葉も私にはあまり知りませんでした
- ・ガンにかゝってからの処置も必要ですが、未然に防ぐ運動が、もっと活発化されるよう、願っています。ますますの御発展を深く祈念して居ります。
- ・オレンジバルーンプロジェクトのことは、はじめて知りました。内容も意味じぜんぜん分かっていません。もっとPRしてもらいたいと思います
- ・現在の日本では、がん患者数に対して「緩和ケア」が受けられる場所が少な過ぎると思う。家族の負担や心労を考えてみても、十分な看病ができにくい状況にある。私の勤務する〇〇(医療機関)では、病院の敷地内に『〇〇』という宿泊施設があり、ご家族や通院で集中的に治療を受けられる患者に大変喜ばれている。今後、「緩和ケア」の場所を増やしていただくことはもちろん、家族に対するケアも希望する。そして、その治療に携わるエキスパートの医師・看護師の教育・人選には慎重であっていただきたい。技術のみならず人間的に優れた人格者をお願いしたい。患者さんの立場になって考えると、「緩和ケア」でいちばん緩和してもらいたいのは、やはり“心”であると思うから…。
- ・とにかく、痛みを軽くできる様にする事が第一希望です
- ・緩和ケアは「がんの痛み」のみに限定したものではないと思う。膠原病、リウマチその他でも多発します。この辺も啓蒙しては？

- ・私は「オレンジバルーンプロジェクト」を知りませんでした。もっと広くみんなが知る事が出来るように情報を提供してほしいと思います。
- ・今回のアンケートではじめて「オレンジバルーンプロジェクト」という活動があることを知りました。がんであると告知されただけで精神的苦痛だけでも大変なので薬で痛みをなくせるなら積極的に肉体的苦痛からだけでも解放されるようになってほしいと思います
- ・国民への周知徹底
- ・資料を送付下さい。
- ・OBPが早く皆の知ることとなり一般の病院でも緩和ケア（心の病）が受けることが出来る様になってほしい（がんセンターがとおくにある為）
- ・私は、手と、アゴのコッセツで退院してきたばかりです。まわりは、口の中のガン、骨のガンと、ガンの人たちばかりでした。一日中口を押さえて「イタイ」と言ってる80代のおばあちゃん、とてもかわいそうで見るのがつらかったです。「イタイ」と言うと座薬を入れられておわりです。これでいいのかと、ギモンに思いました。少しでもガンの人たちのイタミを、やわらげてあげてほしいです。
- ・ホスピスとか緩和ケアは入りたいとか受けたい人になるべく経済的な負担をなくしてほしい
- ・「緩和ケアとは」具体的に知る方法を聞きたい。現在関心がうすいので勉強したい！
- ・心を大切に痛み（心の）に対応しているという事をもっと広めてほしい。
- ・今自分の周りにガンなど重い病気にかかっている者がいないので深く考えもしなかった事ですがいずれかは自分が又は身内の者が必ずそういう事になるだろうと思っています。その時になってあわてないために色々知っておく必要があると考えます。色々な方法で皆にわかるように知らせしてほしいと思います
- ・言葉も内容も知りませんでした。広報活動を期待しております。（※必要な事だと思うので）
- ・新聞などで、もう少しわかりやすく説明してほしい。
- ・1. がんの苦しみは患者さん本人だけでなく、周囲の家族の苦しみも大きいと思います。緩和ケアで人生の質が改善され、患者も家族も笑顔が見られる様になるなら、たとえ早く終末を迎えたとしても、悪い思い出は少ないと思います。日本はがまんが美德、他人の痛みには無感な面があると思うので、緩和ケアの普及に期待しています。
- ・自分の父親が食導ガンで放射線を使用した治療し約27回通院しました。後は本人の生命力にかかっています。父も年齢も80才を過ぎてます。今後このプロジェクトが色々なかたちで広めていってほしいです。国民に分かりやすく説明出来るかたちで。
- ・オレンジバルーンプロジェクト、緩和ケアについての情報は一般の方は殆んど得られないと思います。もっと病院、地域など身近な所で情報を流し、現在癌で苦しんでいる方が身体的、精神的な適切なケアができるようにしてもらえればと思います。又緩和ケアが受けられる施設、専門職など地域で宣伝する必要があると思います。緩和ケアについての具体的内容、ケアの方針について各病院に発信して欲しいです。
- ・緩和ケアという言葉は知っていても、どういう事なのかがよくわかっていませんでした。私も含め、国民に正しい知識が一日でも早く浸透する事を願っております。
- ・近辺で緩和ケアを行っている場所があればその資料が欲しい。
- ・へんな名前をつけるのはやめた方がいい。どこの広告代理店にだまされているのか。リベートのバックでもあるの？痛くもない腹をさぐられるよ
- ・来月に胃ガンの手術をします。そんな現在ですので、ガンという語を聞くと気になり聞き入ってしまいますが。実に多くのテレビ、新聞などで扱っているのがわかります。不治のガンになった

時に人はどんな事を思い、考えるか暗い思いになってしまいます。希望は持てないまでも何らかの目標なりを持たないと、自殺したくなったりしてしまうのかなと思います。そんな時、何かの手をさし伸ばしてくれればどんなに心の支えになるのでは、と思います。オレンジバールンプロジェクトがどんなものか知りませんが、やんだ人の心のささえになる事業はすばらしいと思います。

- ・緩和ケアの普及に大きな役割をになうものと思います。
- ・期待をします。
- ・誰も自分の死を目前にしてうろたえず、不安がらず、痛がらず、悩まず、怖がらずに過ごせる訳は無いと思います。でも、精神的苦痛が残っても“体の痛み”さえ取り除く事が出来れば、何とか1日1日を何らかの形でプラス思考に向わせようとする力が湧いてくるものと考えています。命が消える“定命”の日までを安らかな心で保て、とげの残らない最後であるように、薬などの開発をしていただきたいです。
- ・一部特定の人だけでなく望む人全てが受けられるようにしてください。
- ・緩和ケアを受けられる医療施設の充実をはかってほしい。
- ・痛みは本人はもちろんのこと周りの人にもつらいものである。少しでも緩和できるのであれば進んで受けたいと思う。“がまん”することが美という日本人の意識を少し変える必要があると思います。かんたんに情報が得られる様に（自治体や近くの病院など）してほしいです。
- ・活動を進めてほしい。
- ・2年ほど前から購読している雑誌に「〇〇」という題で〇〇先生の記事が載っています。先生は〇〇でホスピスの研修を受けられ、95年〇〇クリニックを設立、院長に。現在は〇〇理事です。この記事を読んでいると自分や回りには病人は居ませんが病人の気持を心から考えて、本当に押しつけでない幸せな最後を迎えてもらうにはどうしたら良いかということを考えていらっしゃるの分るような気がします。このような施設が全国に出来ればいいなと思います。
- ・もっといろいろな人にわかりやすく広げていくべきだと思います。（私は、今回こちらをいただいはじめて知りました。）
- ・緩和ケア、オレンジバールンPJという言葉自体を全く知りませんでした。医療に携わっていない人、身近な人が「がん」にかかっている人に対しても取組みが理解されるよう、PRをよろしくをお願いします
- ・治療費を心配せず身近かで受けられるようになることをぜひにと期待しております。追伸、このアンケートを書いた後、夕刊で当地の緩和ケアについて“指定地になっていること、〇〇病院でチームを作って努力していること”を読みました。しかし、私の知人でこの春からガン入院をした方が数ヶ月毎に病院を転々せざるをえない状況におかれているのをみていると現在の医療制度に大きな怒りをおぼえています
- ・このようなケアが広くひろがればよい
- ・がんになった人が皆緩和ケアを受けられるようになることを望んでいます。
- ・間違った認識かもしれませんが、緩和ケア病棟やホスピスは高額な負担が伴うと聞いています。裕福な人だけが緩和ケアを受けられるのではなく、全ての国民が受けられる体制整備を望みます。
- ・老人にも分かりやすい説明を。医療従事者に対する細かな勉強会。地域浸透させてほしい。差がない普及
- ・営利団体の利潤追求だけはさけていただきたい。
- ・医師等医療従事者にこの事業を徹底していただきたい。現状ではまだ適切な応対や相談に乗って

もらえそうにないと思いますが。

- ・緩和ケアという言葉は知っていても具体的な内容は知らないという人が多いと思うので、色々な広告媒体で広めていって欲しいと思う。
- ・私はその存在を知らないの、皆が知るように宣伝にもう少し力を入れて下さい。
- ・今回の事についてまったく知識のない自分がアンケートに答える事の意味がわからないが、少し認識してみようとは思いました
- ・新聞広告では症例を示して（簡単なタイトルをつけて目をそいてから）下さい
- ・子宮とリンパ1つを摘出された1人ですが〇〇（ストッキング＝弾性ストッキングのこと）のおかげで日頃病院の清掃に頑張っています。私と同じ悩みの人におすすめしたいですね
- ・大勢の方々に緩和ケアがスムーズに受けられ、安心して最後の時を過ごせますようにがんばって活動して下さい
- ・姉を「がん」で亡くしました。緩和ケアの体力面でも精神面でも、支えがあれば病人、家族共々どんなに助かる事でしょう。つらい時間が少しでも緩和できればと期待しております
- ・「緩和ケア」どっかで聞いたことがある位の程度でよくわかりません。もっともっとマスコミを利用して情報を発信していただければ「がん」＝「緩和ケア」と結びつくのですが、今の所は知らない人の方が多いと思われま。健康な内に興味を持ったり、参加できたり、考える機会があればもっと違ってくるのかなと思いました。
- ・安楽死…。ガン告知…。
- ・病気になれば、最も悩み心身共に最も病んでいるのは本人なので、その心境を理解したケアが必要だと思います。病いと寿命は別のもので、取りまきの暖かい対応が望まれます。
- ・テレビ(教育)で見たことがあります。現在住んでいるところではあまり知ることはできません。老人会に入っていますがお話を聞いたことはありません
- ・緩和ケアが、患者さんにとって「ぜいたく」ではなく、必要であり不可欠な治療ということがあたりまえになり、少しでも患者さんのQOLが改善することを願います。
- ・今月（11月）に乳がんの手術して、退院したばかりの時にアンケートが届き『無作為の抽出』なのかと驚きました。リマンマやかつらのパンフ等もらいましたが、皆さん、どう工夫されているのかそういうことを知りたいです
- ・今まで言葉でしか「緩和ケア」を知りませんでした。2年程前、叔父が胃ガンで亡くなったのですが、もっと身近にこのケアがあったらもう少し違う最後を送る事が出来たのではなかったのかなあと今、思います。私も家族もいつガンになるかわかりません。少して速く第一のガン対策になる事を望みます
- ・情報の発信。スタッフの育成に関すること e t c
- ・麻薬以外での治療薬を普及させてほしい。
- ・この質問紙の内容が非常にわかりにくい。「緩和ケア」について知らなかった人に問7でイメージをきかれてもわかるわけがない。「緩和ケア」について知らない人が問3-5のように周囲の人が受けたかどうかわかるはずがない。知らない人にわかりやすく説明をした上で質問してください
- ・告知する、宣告されるという怖いイメージだけがあるので、がんに対して無知な人間に対して、もっと教えて下さい。
- ・施設内だけでなく在宅で緩和ケアを受ける方々が増えてくると思う。開業医、訪問看護師等在宅ケアを支える人達の緩和ケアの認識の壁がまだまだ厚い。その様な医療従事者への耕しい知識の普及が一般の人達への普及の近道であると思う。

- ・趣旨が途中で変わり天下り先とならないよう期待する。
- ・乳ガン左全テキ後21年現在に至って居ります。(痛み)、吐き気、だるさを和らげる医療用麻薬によってコントロール出来るとあらばたとへ短命になることがあったとしても治療を受けたいと私は思います。終末期であればなおの事苦しみつつ生きる価格など人間の尊厳に反します
- ・実父、実母がガンだったのでガンの末期は身体障害者1級よりもたいへんなことだと国は考えなくてはならないと思います。(生きたくても生きられない)
- ・実際がんになっている(苦しんでいる)本人の身になって、本人の希望に沿って進められるととても良いと思います。
- ・一般の人は「緩和ケア」「オレンジバルーンプロジェクト」について、ほとんど知らないと思う。看護する立場の年齢層に対するアプローチが重要であるのに、不足している感がある。中学、高校のカリキュラムに入れても良いのではないか
- ・何も今は、元気なのでわかりません。緩和ケアがどんなものか、ガンがどんなものかも知りません。毎日運動を100分以上しております。(ランニング、鉄棒その他)
- ・私個人としては、自分の母を肝臓がん(←C型肝炎から)で亡くしている事もあり、その時の事を考えると、このプロジェクトは、とても本人だけでなく、それを支える家族の支援につながる物として期待しています。現在住んでいる近くにも、ホスピスがあり、TV等で情報は目にする事はありますが、利用できるのは余命1ヶ月にならないとダメ等の情報や、費用の事も考えるとあくまでも理想的な支援であり、誰もが受けられるのか、それが疑問でもあります。在宅の時は、今思えば何もしてあげられてなかった事もあり、〇〇センターに入院の時も、疑問を持つ事が多かったです。年令的にも決して人事ではなく身近な人も何人も、病気と戦っているのです、末端までぜひ自治体を通して普及させて下さい。
- ・突然のアンケートで自分がガンに対して緩和ケアに対して何も無知であってビックリしましたが本当に自分がその状況にならないときょう味をもって勉強しないものだと思います。日々の生活でボランティア等にまるで接していなかった事にもビックリでした。ボランティアじたいにきょう味がないわけではないのですが日々の生活で自分自身の事で精一杯なんだな～と感じました。反省して皆様にはがんばって頂きたいと思いました。
- ・がん末期ケアではなく看者が生きる希望を改めて持てる、持たされる医療行為だと広めてほしいです
- ・患者本人のケアはもちろんのこと、その家族もサポートしてやれるようなシステムを考えて欲しい。痛みのない、おだやかな最後を誰もが望み、それを手助け出来るのは医療しかないとすれば、どんな人にも公平に緩和ケアを受けられる施策が必要かと思う
- ・心のケアが、大切なのはもちろんだと思います。少しでも不安がとりのぞかれるための運動なら応援したいものです。
- ・更なる広報、周知をお願いします
- ・本人は体が不自由なので配偶者が書きました
- ・できるだけ多くの人に知ってもらえるために必要なことだと思います。自分も生活の中で気をつけていきたい(気にかけていきたい)と考えます。
- ・1人でも多くの人に理解してもらえよう、がんばって下さい
- ・知っている人は知っているのですがもっともっと「オレンジバルーンプロジェクト」の知名度が上がるといいと思います。その内容についても知りたいと思います
- ・心や体の痛みの緩和ケアを地域特に自宅で受けられる様になればと思います
- ・緩和ケアは信頼関係がもっとも重要なことであり、ボランティアなどいろいろな人々の協力を得

るのは難しい。ボランティアなどの協力を得て行なうとしたら、ボランティアの人々の高度の教育をしてほしい（特に人としての心）。家族の心のケアもしてほしい。

- ・痛みだけでなく、恐怖、不安に対して対応できる体制を強化して初期の患者のケアにも充分に対応してほしい
- ・一人でも多くの方が、がん等の痛みを克服出来る様願っております
- ・私自身、もしもガンになったら、寿命が短くなってでも痛みやくるしいのは嫌なので、是非緩和ケアは受けたいと思っています。まだまだガンは痛いもの…と思っている方が多いので緩和ケアを普及してほしいと思っています。テレビなどでもそのような番組はよく見えています
- ・がんの専門医（薬にも）を充実して欲しい（特に地方）病院からの情報がないので病院の専門医がわからない医師の情報欲しい。受診するため、渡り歩く人が多いと思う。病気の人を助けて下さい。お願い致します。
- ・がんの体験がないのでよく分からない
- ・義妹（大腸癌）、義弟（胃癌）を本人の希望で看病致しましたが、末期の苦しみは心痛みました。モルヒネが使用されたと記憶しておりますが、意識混だくで見舞って下さる方々も理解出来ない様子でした。命が絶える時には、痛みを緩和し、周囲の方々と笑顔で「ありがとう」と「さようなら」を伝えられたら、癌も恐くないし、嬉しい気が致します。御尽力賜ります様、どうぞよろしくお願い申し上げます。
- ・まったく認知されていないと思う。テレビその他メディアを使って知られるべきだと思う。痛みに対する治療は医療の重要な行為と思う。
- ・広告が足りない。病床が足りない。国の援助が足りない。
- ・「ブラックジャックによろしく」をアニメ化して下さい。
- ・もっとPRしてほしい。
- ・私の友達にもがんになっている人が数人います。これだけ身近にいるということはいつ自分にも可能性が出てくるとこわい気持ちになります。そしてそういう人達にどう言葉をかけていいのかわかりません。なるべく多くの方がケアを受けられる様推進してほしいです。
- ・病院及び、在宅でもその方がその人らしく人生をまっとうされることが望ましいと思います。人はその家（その方が住んでいたその家、その場所で愛着のある布団の中）でくらしたいけるのが本来であると思います。緩和ケアも訪問医療看護もあれば…。家族に見守られて旅立ち、悔いのない（ご本人の痛みをまわりの者はどう受けていけばいいか？）もあります本人がまっとう出来る人生を見守りたい為に、その為の公的援助も必要だと思います。①のケア、それは大切な事だと思います。その方の心に寄りそおう！！ここにいますよ！！と。そうしてその方のまっとうした人生送れますように—
- ・「がん」になっても治療すれば治ったり、長く生きる事が出来ることは知っていますが、もう自分が「がん」だと宣告されたら、「もう…死んでしまうんだ…」って思ってしまう。そんな時の「心のケア」は、とても大事だと思います。言葉1つで、つらい事も楽になる事はたくさんあると思うので1人でも多くの方の心を癒してあげてほしいです。「心」の問題はとてもデリケートで難しいところも多いと思いますが「緩和ケア」を少しでも多く広めて下さい。私も今回のアンケートで「緩和ケア」を知り、いろいろ考えさせられました。ありがとうございました。今後も頑張ってください。
- ・プロジェクトの存在と事業内容が多くの人に知られるようつとめ、多くの人に利用されますことを望みます。
- ・いくら緩和ケアといっても、ガンの人が本当に心を開ける個々に合った人材を選ばなければ、成

り立たないと思いますので、慎重に（信頼関係を築くことのできるのうな相手）を選び、それぞれの担当者にするべきだと思います。

- ・少しでも痛みがやわらぎ、がんに対し前向きに病気と戦う気持ちが持てたり、不安を解消できたら良いと思う。
- ・私は15年前に乳がんにかかり手術をしました。術後いつ転移するかの不安と心の不安を聞いてもらえる人がいませんでした。生活におわれながら自分なりに立ち向って年1回位の海外旅行でストレスを解消しました。長年やっていたフォークダンス（32年目）社交ダンス（20年目）も楽しんで続けています。仕事も現役です。
- ・まちがい間1-4ではいに丸したがいいえが本当の所
- ・痛みはつらいものです。痛みを取る方法があるのなら取ってあげて下さい
- ・私は幸にも痛みを知らずにおりますが多くの患者の皆さんに痛みのない生活を送って頂けるようお願いしております
- ・がん＝（イコール）死という概念があるのが正直な気持ちです。もうそこできっと病気に負けてしまっていますね。精神的な部分をケアしてもらうことは、非常に大事なことと感じます。オレンジバルーンプロジェクトが成功することを祈っています。
- ・4人兄弟のうち、3名がんになり、それぞれ胃がん、食道がん、ぼうこうがん、そして私は末っ子、まだがんにはなっていませんがそれぞれの状態を見てきました。痛みは人を変えます。私は上手に緩和ケアを受けたいと願っています。一。兄弟は皆健在です。皆、達成した生き方をしています。普通に目にし、普通に会話できるようになればいいナと思います。
- ・良くわからないので情報が広く浸透すれば良いと思う
- ・今年の夏、おばあちゃんが、がんになってしまいました。緩和ケアというのは知りませんでした。早く普及できたらいいと思います。
- ・心と体、両方のケアを望みます。患者さんが安心して生活できるようサポートして頂きたい。
- ・医師不足、病棟閉鎖など、いろいろ大変な問題があると思いますが、地域格差が出ない様にして頂きたいです。祖母は、大変苦しんで亡くなったと聞いています。「緩和ケア」という言葉も知らない方も沢山いらっしゃると思います。誰にでもわかるよう横文字でなく、判り易い言葉で広めて、祖母の様に苦しい思いをする人が少しでも減らして頂くようお願いいたします。
- ・がん治療、緩和ケアについて多くの情報を提供して欲しい
- ・OBPがよくわからない。
- ・“ガン”と言う病気は、大判が食事からきていると思われまます。食事についての徹底管理ストレスの廃除方法など、心と体のアドバイスをきちっとしてほしい。またガンにならないための告知もしっかり行ってほしい。
- ・自分だけは、ガンにえんがないと思っていたのに見つかった時はショックで泣きました。「オレンジバルーンプロジェクト」と言うことばも始めてです。もっと身じかな所へ分かる様にしてほしいです
- ・がん以外の難病等による、心の悩みや疼痛に関しても対応しているのか？
- ・未則患者には痛止を打ってやらないと、見て居て苦しうで打ってもらいました。母も打ってと云って居りました。出来るなら、間をおいて打ってやりたいと想って居りました
- ・患者本人だけではなく、患者の家族の心のケアができる機関もあるといいと思いました。少しでも多くの方の救いになる様、どんどん広めて欲しいと思います。
- ・身近にがん患者がいないので、「緩和ケア」と言ってもどういった事なのか分かりません。がんの痛みと治療の際の副作用は苦痛をとまうと聞いているので、少しでもその苦痛が和らぐよう

にさせていただきたいです。

- ・癌イコール死ではない。それが、まだまだ誤解されていて、癌を恐れているあまり正しい情報を得ようとせず無知でいる事に疑問ももたず多くの方が平然として生きています。本当に必要な重要な事には、困難がつきものです。それでもあせらず、緩和ケアを大きく普及推進して行って下さい。
- ・一般に認識度が低いように思われるので、もう少しピーアールすべきと思います。
- ・正しい知識と情報が広くにわたるようにしてほしい
- ・事業内容に関心を持ちたい。
- ・モルヒネ等を正しく使用できる医師の養成を早くして下さい。都会のガンセンター等へ研修に行けるようにして、田舎の病院でも使ってほしい。(現在は、まだ少ししか研修に行っていないようですので数を多くしてほしい。) モルヒネにまだ否定的な医師もいるようですので、そういう頭の固い医師にも研修を受けさせてほしい。患者が希望しても、そこでs t o pしてしまうとかわいそうです。妻の母が肺ガンでしたがモルヒネでずいぶん救われたようです。
- ・父は腺癌の診断を受けました。手術はせずに抗癌治療ですが、副作用で、手・足の感覚を失っています。D rに訴えても、「癌と副作用のどちらを取るか。」という様な返答、大学病院等ではD rとクライアントの間に入っていただける様な活動をしていただければ、患者もより多くの選択肢が選べると思います。在宅で末期口腔癌のターミナルケアをしました。麻薬も切れた時の痛みはととても、つらそうでした。でも最後までご主人の介護して他界された、その生涯は充実したものだと思っています。麻薬の使える量と時間の細かな調整は必要だと思います。
 - ・「緩和ケア」という言葉はよく耳にするようになったが、その本当の内容を正しく理解していないと自分では思うので、その意味を正しく広めることをまず期待したいです。
- ・緩和ケアそのものをよく知らなくて申し訳ないです…。アンケートにも満足に答えられません…
 - ◆…。広くひろげてくださる事を期待します。
- ・緩和ケアを普及することにより、特にガンと成った人の勇気づけるケアが (+) に成ると良いです。
- ・痛みがなくて、心安らかに、最後まで充実した生活がお送れたら、幸福だとお思います。緩和ケアの普及は是非進めてほしいとお思います
- ・特ニ終末期には薬剤を使用して下さい
- ・繰り返し緩和ケアとは何ぞやから、周知すべきと思う
- ・1. 「オレンジブループロジェクト」が国のがん対策の一環であり、その内容が理解されているとは云えない現在、(がん治療中の方、家族、友人、その患者の方の地域の方々は認知していると思いますが)、「オレンジブループロジェクト」に何を期するかと言うより、前記の設問を考慮することなく、回答出来る状況に、P R活動の一考を希みます。
- ・病院の統廃合により、身近に医療機関が少なくなって来ている状況なので、地域の方々が安心感が得られるよう、プロジェクト事業が幅広く住民に理解され応えていただけるよう取組んでもらいたい。
- ・Z I P - F M主催の日本臓器移植ネットワークのイベントに以前参加した事があり、臓器移植について考えるいい機会でした。オレンジブループロジェクトでも、こういったイベントを行うと、若い人にも関心を持ってもらえると思います。
- ・もっと知名度が上がることを期待します。
- ・緩和ケアという言葉を知らない人が多いので、もっと広く、テレビ、雑誌などで、アピールしてほしい。

- ・「オレンジバルーンプロジェクト」と活動がある事初めて知りました。知らなかった私が遅れているのでしょうか。もっと広く新聞、テレビで広報してほしいと思います。高齢者はインターネットにはちょっと手が出ないので…。
- ・都市部に比べると地域での格差があり対応がどうしても遅い事と年齢の高い人々の理解のわかりやすいバイタイや人員が多く仕事のできる社会システムを作成、実行していただきたいです。
- ・問7の「緩和ケア」の意味不明の為解答出来ない。このアンケートを提出し実際に何を実施するのですか。書類提出だけでは意味がない
- ・〇〇市〇〇地区に〇〇(施設名)があり病気によっては〇〇病院又は〇〇病院へ医師より手続きをしてくれます
- ・ごはんをいただいても、なにもあじがない。それがつらいです
- ・たとえ癌で死を迎えようと、良い一生だったと思える様な指導、勉強を期待したい。私は、今すばらしい人生を歩みつつあると日々感謝しています。(大腸癌術後5年が経過しました。)
- ・不安解消のためにも、その患者のための正しい情報の発信をお願いしたい
- ・メディア特にTVや地域の広報誌などを通じて緩和ケアに対する人々の認識をもっと高めていてほしい。なぜなら一番身近に吸収できる情報だから。
- ・国外で使用されている。ガンの薬(医社と患者の了解で)を国保で使用できるようにしてもらいたい。それも緩和ケアの一つではないでしょうか!
- ・もうすぐ年金生活のみで生計を立てなくてはならない夫婦です。一番には金銭の問題で困る様になります。病院にも夫婦で毎月行ってます。それ以上の医療代はきびしいです
- ・もっと興味を持てば、身近にあって費用面、ひとり暮らしの人などいろいろ問題は発生すると思います。介護と同じ様にひとりでは何も出来ません。心のケアがあれば、グッと救われる人が多数いると思います。おじが受けていたのを思い出しました。1年で亡くなりましたが。
- ・友人で同じ歳の人が、乳がんで現在治療を受けています。身近なところに“がん”の患者がいるのに、私も友達も知識不足で接し方にも苦勞しています。他人事ではなく、もう少し勉強する必要があります。人の命を対象とした大切なお仕事、頑張ってくださいね。
- ・問7・キについて兄がH. 19年肺がんで亡くなりました。緩和ケアを受ける為その施設に(病院に)入院しましたがガンの治療はあきらめて下さいと言われてました。兄は最後まで治療を望みました。〇〇センターは末期ガンの患者には緩和ケアの為の入院しか言わず兄がとてもかわいそうでした。緩和ケアの病院でもはっきりと言わず治療薬の投薬をして欲しいと思いました。緩和ケアの病院には、バラつきが多くおそまつな病院も多く充実した施設の対応を望みます
- ・緩和ケアという言葉や考え方については、何となく取っているものの、具体的にどこまで(どの様な医療機関で)どの様な療法(料金なども含めて)が行われているのか、情報がないので、そういった具体的、実用的な情報が欲しい。もしくは、その様な情報の普及に力を入れてもらいたい
- ・オレンジバルーンプロジェクトのことを知りませんでした。情報がもう少しほしいです。
- ・はじめて聞く言葉なので、もっと多くの人に知ってもらうように活動して下さい。頑張ってください。
- ・医者薬物治療と「緩和ケア」はその方法、効果においてどのように違うのか?知りたい。
- ・緩和ケアということ初めてだったのであまりわかりません
- ・続ける事は大変だとは思いますが、がんばって欲しいです。
- ・私の姉が肺ガンになり(20年前)痛い痛い毎日で忘れられません。その時病院内に痛み止めの注射によりちゅうどくになっていた男の人を見ました。現在はいかがな物なのでしょうか?…

- ・最近、がん告知があたり前のようになっているが、やはりショックを受ける人も多いと思う。そのためにはこのプロジェクトは大変必要なことと思われる。日本は心のケアをすることがアメリカなどに比べ非常に遅れていると思うので期待は（大）です。
- ・緩和ケアにより毎日の生活が充実できるような効果を期待します。1人で悩むのではなく、廻りの人々から生る力を与えられればと思います。
- ・意味が解らないので、期待もなにもないけれど、ガンについては多くの人がかっとくわしく知りたいと思うので、テレビやポスターなど、みんなの目につくところで広報活動してほしいです。
- ・知らない事（身近な人ががんにならない限り）が多いのでもっと説明等の機会があればいいと思います。
- ・数多くの人々が“緩和ケア”という言葉、内容を知ってもらえる様努力して下さい。
- ・2年前に父親ががんになり、手術をしましたが、幸い、再発することなく元気に過ごしておりますので、緩和ケアについてもほとんど関心がありませんでした。今回の調査に答えることにより、これから気をつけて情報キャッチしていこうと思いました。
- ・まだまだ認知度は低いと思う。もっとメディアを使って国民にアピールするべきだと思う
- ・私はあまりオレンジバルーンプロジェクトは知らないのですが小さい頃から、ずっと体がすごく弱いため、今、毎年病院通院してるため、子宮筋腫のため、その他の病気毎月医療費や薬代がすごくばかにならない。鼻から、点鼻薬、口から漢方薬、おしりから坐薬、それに便秘薬、腸の薬などで3、4万かかるから、もっと国民の生活がすごく楽になれば安くなればいいのに、毎年不安に思ってます。これから先病院に通院できなくなるかも、生活がすごく苦しいです。正直言うとな、国民に対して弱い物いじめですよ。考えてほしいですよ。日本のせいじかは、世の中まちがってますよ。消費税にしる、60すぎたら皆さん年金ぐらし、病院だって毎月・毎年行けなくなるかも。死ぬと言わんばかり正直言って、すごく頭にくる、はらが立つ毎日。このいかり、国民をだいひょうして、なんとかして持らいたい。問題です。何かいいかいけつさくはないのかと思う毎日この頃です。国民の皆様も私と同じ思ってると思いますよ。これが私の今の本音です。この先不安に思ってることです。わかって下さい。ごりかい願います。
- ・緩和ケアについての勉強したいと思うので、身近かなテレビなどで特集番組があるといいと思います。
- ・身体の痛と、心の痛みを少なくしてくれることを特に希みます
- ・病にかかることはつらいものだと思います。緩和ケアを、つらい思いをしている人すべてが受けられるようになることを期待します。
- ・最近マウスの実験で栄養食品を投与したら癌細胞が増殖しないと云う内容の記事を知った。この実験と並行して緩和ケアを実施すればその実績によりけりであるが癌患者に対して多くの期待を与えることが出来るのではないか！！
- ・地域（地方）と都会での格差が出て来ると思うのでその問題にも取り扱って欲しい。もっと広く緩和ケアを広げて欲しい
- ・未だ具体的なイメージを持っていません。
- ・20年前父は肝臓ガンを患い、7ヶ月間の入院生活を終え、他界しました。当時独身だった私と母の2人が付添っていましたが、どう介抱して良いのか悩んでいた時、ある1人の看護師の方を手本にしました。ガンや薬の副作用による痛みやだるさにより、元来、辛忙強い父が、人が変わったように荒れだしたのですが、そんな父を大らかに受けとめ、専門職としての、多くの知識や助言を下さり、本人との信頼関係を築いて下さりました。父とその看護師さんとの関わりを側でじっと観察し、私自身もまねをさせて頂きました。お陰様で、終末期の父は本来の辛忙強さと精

一杯の穏やかさを私達に見せてくれました。何をどうすれば、『緩和』できるのか。患者ご自身の症状、性格、家族関係により、様々だと思われそうですが、患者と接する機会の多い『看護師』さんが一番多くの答えを持っていらっしゃるのではないのでしょうか。ただ、多忙な業務の中で、自らが声を上げるのは困難だと思います。しかしながら、本当に必要とされる『緩和ケア』を充実させる為には、是非とも、現場看護師さんの声を拾い上げて頂きたいです。病院の方針や直属上司の嗜好にじゃまされることなく…。この事業に、心より感謝します。

- まだまだ知らない事が多いのでわかりやすく告知をしてほしい
- 「緩和ケア」の情報が提供されていない。
- もっと多くの人知ってもらふ運動が必要だと思う。
- 国民に知らせることは大切だと思うので、十分な予算をつけて実施してもらいたい。しかしそれよりも何よりも、がん治療・予防を含め、医療や保険全般に対して国が十分な予算をまわして国民が安心して生活できるようにすることの方が重要だと思います。
- 国民にもっと知ってもらえる様に広報等に力を入れてほしいです。
- 事業が拡大すれば、細かい気づきがおろそかになる傾向が出てくる。これらは、初期の段階で対応を考えるべきである。
- 草の根活動を継続し、マス＝メディア（とりわけテレビ）に取り上げられるようにする。
- 介護の仕事についています。今年7月で余命1年と宣告された方の通院介助に同行し毎回本人以上に結果に安堵します。今のところ痛みも無くお元気にされてます。2、3年前にも肺ガンの利用者の方の末期を自宅でとの事で介護し痛みを訴え続けられました。ポスピスに行かれたのですが1週間でお亡くなりになりました。少しは頭のスミに緩和し精神的なやすらかになって頂く位の知識しか無く勉強しなくてはと痛切にその時思いましたがもっと広く又なおかつわかりやすくこのプロジェクトが進む事を願ってます。
- 実際に患者になった事も無いので、良く分からないが以前家族の者が医大の先生の話しを聞いた時、終末期の患者さんでも痛みさえ取ってやれば最後まで、おだやかに暮らせるとの事を聞くと、「副作用とか寿命が短くなったとか」が無いのならもっと現場の医療者の生を声を多く聞けば、普及するのではないかと思います。
- 今回始めて聞く言葉でしたので、もっと多くの広報が必要
- この言葉は全く知りませんでした。会社では、2.5万人の健康をみている部長ですが聞いたこともありません。娘も医療技師ですが、知りませんでした。もっと社会に知らしめるべきです。必要ならば。
- 医療者にももっと緩和ケアについての周知や教育（麻薬の使用をためらう人もいるときくので）と行政にもケアセンターの増設や専任の人の配置などもふくめはたらきかけてほしい。
- 言葉もはじめてきたので、よくわからなかった
- 痛みに対してもっと手軽に麻薬の使用を緩和してほしい。
- まずは知名度UPから
- ガンの痛みは人によってそれぞれ感じ方が違う。医者から『これだけの痛み止めを出しているのに痛いはずがない！』と又、『あなたは気にしすぎるから痛いのではないか』などと言われた。もう少し患者の痛みや、気持ちをわかってもらえたらと思った。また私達は、治療は医者にまかせておけばよい、と思っていたが痛み止めが合わない時など、患者外から『薬を替えてみてほしい』と言えばよい。実際薬を替えてもらい痛みが和らいだ。人まかせでなく、自分達も知識を持っていることが大切だと思う。
- 身近な癌患者がいないのであまり関心がありませんでしたが、いざという時の為にも知っておき

たいという気持ちがわきました。

- ・自分には他人事のように思っていました。色々と考えてボランティアでも、色々な人々の協力のもとで助け合うという事は良いのではないのでしょうか？はじめて聞く言葉で何も言えません。申し訳ありません
- ・詳しいことがもっと知りたい場合はどうしたらよろしいのですか。いずれにしてもまったく知らなかった事が少しショックでした。ケアは大切な事だと思う。まずは言葉が早く普及することだと思う
- ・なんで、横文字にする必要があるのか？率としては、年を取った人の方が末期ガンにかかりやすいと思われる。夫が、妻がといった場合、日本語でわかりやすく、手助けはできます。と書けば、年を取った人には穏切だと思えます。
- ・活動内容など広報をもっとしてほしい。分かりやすくお願いします。
- ・がんは他人事ではなく、この活動はとても重要だと思うので新聞の全面広告などを使って広くアピールしてほしいと思います
- ・患者の痛みが少しでもへるのであればどんな治療もして頂きたいと思う
- ・延命措置よりも、人生を最期まで豊かにすごせるケア方法だという事を周知させてほしい。祖父がホスピスでいい最期を迎えられたと思います。
- ・ガンは告知される事によって心残りのない人生の終えんを迎える事が出来ると思う。段階に寄るとは思います。手術が可能ならするべきです。自身なら75歳以上なら手術したくない。
- ・もっとわかりやすく
- ・前日テレビで大都市で在宅で訪問治療を受けておられる方を見ましたが地方のどの自治体においても受けられるようにしてもらえ事を期待します
- ・どんどん広報で知らせて欲しい。
- ・自分ががんになったと想像した時一番不案に思うのはお金の事だろうと思います。保険がつかえるかどうか、どれぐらいかかるのか。医療費に関する不案も相談できるといいかなと思います。
- ・父が脳しゅようで5年前に外界しました。短期間だったのであまり苦しまず(?)旅立っていったように感じました。一が本人は、さぞつらく、痛く、不安だったと思います。だれでもが、正しい知識をもって、安らかに幸せなさいごが送れるようサポートしていただければうれしいです
- ・緩和ケアという言葉が全く聞いた事が無かったのもし自分が将来ガンになった時に緩和ケアを受けられるように認知度を上げてほしい。
- ・医学が発達したとしても心の痛みは医者では治せない心の療養は不可決と思う。心の緩和の方が大事と思う
- ・がんと聞くと、どうしても“辛い”“死んでしまう”という暗のイメージが強いので、当事者を含め、まわりの人は不安になる。症状によっての正しい知識や治療法などが、世の中にも、もっと広がっていくと良いなと思う。
- ・上記のプロジェクトの名前すら知らなかったのもっと多くの方に知ってもらい参加出来る場を作るべきだと思います。
- ・よりよい研究をしていただきたい。緩和ケアもよろしいですが病気にならないためのケアも大切なのではないのでしょうか？主人も手術をしましたが主治医の先生の指導がよろしかったせいでもう満7年たちました。その後元気にすごしています。手術もあまり高齢(80才以上)ですとたいへんなのではないのでしょうか
- ・緩和ケアを受けたい時に、迅速に受けられるように、施設の充実と豊富な情報提供を期待する。誰もが必ず受けられることが大前提であると思う。

- ・私はこの事業が有り事、初めて知りました。一般市民へのPRの強化が必要と思われま
- ・研究の結果1日も早く善い特効薬が結集される日を望んでおります
- ・ガンの末期は激しい痛みに襲われると聞いてます。その為医者用の麻薬もやむおえません。最終的に助からないのなら苦痛なく死んで行きたいものです。その為にこのようなグループを通して真剣にとりくんで行ってほしいものです。
- ・がん患者が安心して生活できるような社会形成に努めて欲しい
- ・是非、早急に普及して欲しいと思います。妻は現在〇〇の〇〇病院外科にて治療していますが、家から遠く近くに無く、困っています。治療費も高額で、この先が不安で一杯です
- ・緩和ケアの言葉そのものの中味が一般的に不明であり全々不明（わからない）事が多い。庶民のかんかくでなじみがうすい
- ・患者家族が緩和ケア情報を身近で入手しやすい事を望む（医療と費用も含む）
- ・普及の為の障害が何かあるのでしょうか？それが予算なら予算獲得の為頑張って頂きたいし、一般市民の認識不足、誤解ならNHKなどマスコミを利用して正しい知識を広めてほしい
- ・もっと、地域の人が緩和ケアについて知ることができる場をもうけてほしいです。
- ・理学療法士として勤務しています。緩和ケアに対する理学療法にも興味があり（がん性疼痛など）研修会にも参加しています。今後、医師、コメディカルも含めた勉強会、研修会ができれば患者さんに対する包括的な治療が充実できると思うのでよろしくお願い致します。所属団体は〇〇協会です
- ・問7で「正しいと思う」なんて、自分にはわからない。今の医学は薬に頼りすぎという傾向があるから。がん治療はさておき、日頃のちょっとしたことでも大量に薬を出す医者が、がん治療緩和ケアに限って少量に有効な、自然治癒力（本来の生命力）をひきだすような、薬を処方するとは、常識的に考えてみればありえないし、患者のたいていはわかりようがないではないか。そう、あなたも思いませんか？←父親は、薬の大量投与で黄ダンになったが入院費は自分持ち。泣きねいりってのですね。
- ・年齢があがるにつれ、近い人達にがんの人が増え身近な問題になり…緩和ケアも含め、尊厳死や告知の問題など不安、もしも自分がと考えるだけで強い恐怖さえ感じます。実際には自分で能動的な気持ちにならないと、情報を入手したり、真剣に学び考えたりはしないでしょうが、そんな気持ちになった時はいつでもすぐ、その情報に触れられるよう、機会があるごとメディアでとりあげたり、ネットや図書館など身近な場に常にまとまった情報を置いておいて頂きたいです。
- ・今の主人は、命はいつかなくなるのだからほっておいてほしいと言います。私はケアは大切ですが本人を苦しめたくないです。がんの出きる部位により考えたいですね。〇〇にあるのは知っていますが…利用するのでしょうか？ボランティアの人の参加はこのみません。
- ・本人はもちろんつらい！回りの家族もつらい！今も心が痛い…。自分だったらたえられるだろうか…こわい！！
- ・日常生活を普通にすごしながら最後をむかえられるケアを期待する
- ・各自治会を通して頂く事が、間違いなく自分自信に一番身に付き、分りやすいのではないのでしょうか。
- ・あまり緩和ケアがどんな事なのかわかりません。病気になってる方が少しでも何か期待になるような事があれば「オレンジバルーンプロジェクト」の活動を期待したいです。お役にたれなくてすみません。がんばって下さい。
- ・患者さんの不安や痛みが少しでもなくなれば嬉しいと思います。家族の皆の大変さもケアして頂けたらいいですね。頑張ってください！

- ・ガン患者以外に家族への心のケアも大切だと思う。ガン患者のワガママもできるだけ受け入れる。
「もう終り」(死ぬ)という言葉に対して適せつに受けこたえのできる医療者を育てる
- ・いなかの町では病院の維持もままならない状態です。病院を利用する、お見舞に行く等の交通の便も不便です。その上、高齢者でしめる地域は、情報を収集する事も難しい事だと思います。緩和ケアを受ける人、受けたい人はたくさんいると思います。オレンジバルーンプロジェクトも、都会だけでなく、いなかの高齢者の方たちにも普及していただけるよう、これから期待しています。
- ・もっと一般の人達にも緩和ケアを理解しP t自身が治療を選択していければいいと思う。そういう施設(緩和ケア)がもっと増えればいい。活動頑張ってください。
- ・緩和ケアを普及するためにもメディア等を利用してほしいと思います。
- ・期待というよりも「オレンジバルーンプロジェクト」という事業を知らなかったのだから、どういった内容なのかを知るチャンスや場所があるのなら、まずそこから入ってみたいです。近年、「がん」という病気も多くなり、よく身のまわりでも耳にすることもあります。少しでも力になることができるとも思います。現在、介護の仕事に携わっているのですが、医師や看護師とも協力できる部分があるのならとも思います。〇〇在住、H
- ・私の父は2005年に余命を知らされる事なく肺ガンの術後6ヵ月でこの世を去りました。緩和ケアが普及していれば、家族としてもっと何かしてあげられる事が、そして本人も残していきたい事があったのではと思います。多分私もガンになるでしょう。その時自分の行く先があれば安心です。地方にも施設又は知識をもった方が一人でも増える事、期待いたします
- ・「緩和ケア」という存在を今回初めて知り、少し興味を持ちました。まだまだ普及されておらず、今後期待したい内容であると思いますので、ぜひ普及させていって下さい。もっと身近な存在になればと良いと思います。
- ・自分が緩和ケアを受けたいと思った時、どこにコンタクトすれば良いのか知っていると感じて安心感をもって暮らせる。
- ・緩和ケアは医療的なケアのことか心のケア、または福祉的なケアかよくわかりません。問7の質問に関しては、私達のあまり知識がない事に対してはむずかしい問題だと思いました
- ・主人を22年前ガンで亡くしましたが、まだ緩和ケアもあまり知られていなく、大変でした。本人だけでなく介護する者にも色々な情報があると助かると思います。
- ・緩和ケアの普及のためのPRを期待している。
- ・緩和に付いて何も知りませんでした。もっといろいろと知りたいと思いました
- ・新聞、テレビなどで特集をくんでもらい、一般の人々に理解しやすく広めてほしい。
- ・がん=死のイメージがあり、死に至るまでの苦痛を考えるととてもこわい。緩和ケアがどういったものかわからないけど安心できる治療につながるのだろうか。もっと内容を知らせて行って下さい。
- ・患者の苦しみを少しでも和らげてあげたいと思う気持は誰れも願っている事だと思います。
- ・病院のホスピスにはコネクションがないと入れないと聞きました。平等に権利が与えられる様にして欲しいと思います。
- ・どんな場合でも都会は病院も多く、恵まれている面が多いと思う。地方では病院も施設も遠方まで出向くということが多いと思う。又親族の介護は家族がするのが常識という思いがまだまだ強い。たくさんの人に緩和ケアの事を知ってもらうことが大切なのではと思います。
- ・もっと広く深く内容を広めて欲しい。どんな点が良くて、問題点、改善点はあるのか、現在の状況はどうなのか…わからないので。今回のアンケートで興味を持ちました。

- ・がんは、2人に1人はかかる病気だと新聞で読んだことがあります。実際には、家族や周囲にがん患者がいるような場合以外には、そのかかる痛みや精神的、経済的負担、苦しみ等理解されるのが難しいところがあると思います。〇〇氏や〇〇氏のようなマスコミの顔がその体験を語る姿には関心をひきつけられます。
- ・日本の医療体制を見直す必要がある現在、何故緩和ケア事業の「オレンジバルーンプロジェクト」が特出するのか理解できない。天下り団体を増す為のプロジェクトですか？
- ・がんばって下さい。
- ・がんは誰もが経験する可能性のある、とても大変な病気なので、心の痛みも含めてケアを受けられる事はとても心強い事だと思います。ぜひ活発な活動をお願い致します。
- ・緩和ケアは自宅よりずいぶん遠くの病院に行かないと受けられないというのではなく、通院する病院だったり近くの施設で受けられることが望ましいと思います
- ・心のケアを期待します。
- ・緩和ケアが普及することがよいことであると言えるほど理解はしていないが、選択支の1つとして、多くの方がふたなく取り入れることができるようになると良いと思います。
- ・このアンケートの意味がわからない。もっと他に金の使い方があると思う。
- ・事業についての普及、啓もう不足で不明な点多し
- ・緩和ケア、オレンジバルーンプロジェクト等の言葉を広く知ってもらう必要があるのではないかと思います
- ・私もほとんど緩和ケアの事は知らない事の方が多いので、もっと普及してほしいと思います。
- ・普及拡大を願います
- ・いたくて、いたくて、くるしんでいる人がいるとききました。もし私だったら早くナントカしてもらいたいと思います。(きたない字でゴメンナサイ)。本人だけではなく、身内の人がかわいそうと思う。
- ・新聞やインターネット・シンポジウム等では興味や感心のある人しか情報を得ようとしないのでTV（特にゴールデンタイム）で実際にガンで緩和ケアを受けた人・受けてる人・ガンの方（特に芸能人）に出演してもらい、生の声を聞いて、良い面や悪い面、又改善面や課題面等もかくす事なく知らせていく事で少しでも多くの老若男女に知ってもらえるのではないかと思います。言葉だけでも知っているけどいざ自分の身近な所に来た時に何らかの対応ができるのでは？と思います。
- ・「オレンジバルーンプロジェクト」を今まで知らず申し訳なく思います。私を含めて多くの人に緩和ケアの正しい知識を普及させて欲しいです
- ・「がん」の痛みを解消するために尽力していただきたいと思います
- ・患者自身もそうだが、医療の立場にいる人達が理解すべきだと体験的に思う。痛みや恐れを甘え、とか我ままとしかみていない。私は〇〇北部に住んでいるが、緩和ケアを受けるためには都内まで行く必要があるのかな、と考えていた。地方でも安心して受けられるようがんばって欲しい
- ・自分は今、その団体がある事に初めてわかりました。
- ・少しでもがんが無くなって欲しいし、がんを100%「治る」って言えるようにガンバって欲しい。
- ・緩和ケアという言葉は初めて目にしました。広くみんなに知ってもらいたいと思いました。
- ・「オレンジバルーンプロジェクト」については全く無知なので、これから覚えたいです。
- ・問7はいずれもなっていないのでわかりません
- ・この言葉を若者でも知っている、どんなことをしているのかなどの内容も分かるようにしていく

ことで安心して病院に行けると思いました。

- ・なんで私が選ばれたのかがガテンがいきません。私はこれについては何も分かりません
- ・ガン患者やその家族の為に広く宣伝して下さい
- ・もっと多くの人を知るように、テレビ等で宣伝して下さい
- ・痛みや不安感から日常生活に支障をきたし、ささえる家族もご苦労なさっているのをテレビで見ました。見近にガン患者がいらないため緩和ケアについて日常の会話に出てきた事ありません。私はテレビで紹介していただければ勉強したいと思います
- ・あまり名前を聞く事がありません。医療機関などにポスターを貼付けするなど人の目に付く様にしてほしい。
- ・第一線を退ぞいた60才以上の男の方も女の方でもお元気な方で人様のお役に立ちたいと思っておみえになる方々が各地域で少しでも多く教育を受けてボランティアをして下さったら嬉しいと思います。
- ・都会だけでなく、地方にも力を入れて下さい。こういうプロジェクトがある事を全く知りませんでした。
- ・公的なキャンペーンなどを期待します。
- ・医師は患者さんに対して、今後病気の治療方針がき来た時には、緩和ケアについてわかりやすく、明確に説明してほしいですね。がん告知された時は、手術後から緩和ケアと平行して治療をしてもらいたいと思います。
- ・病気が直る見込みがあるなら緩和ケアみいと思うが、見込みが無いのなら、自分なら安楽死を希望する
- ・緩和ケアの事がいまひとつよくわかっていませんが、主人が死をむかえるまで、あまり苦しまずにしづかに逝ったことは、ありがたいと思いました。前もってお願いをしておきましたので…半年というみじかい？期間でありましたが…私もあの様にと願って居ります…が
- ・未だ一般的に余り知られていないと思うので、TVドラマ化するなどもっと露出度を上げた方がいいのではないのでしょうか？勉強不足でしたのでこれを機会に少し情報収集してみます。
- ・緩和ケアは主人がガン末期の時知ったのですが、本人が家へ帰って床（たたみ）の上で死を迎えたいと言った時、こちらのケアの方々にお世話に成り、私も心強く感じました。しかしながら私の心の準備がなかったので、死後少し苦しかったのは一早目に自分の（家族）のケアが必要大と思知らされましたので。早くからケアを受けることを進めるべきと思います
- ・だれもが受けられると良いです
- ・「緩和ケア」一般市民の多くは認識不足であると思う。勿論私は「はじめて」です。
- ・自分も知らなかったように、多くの人知らないと思います。もっともっと世間に知らせて下さい。
- ・近い将来自分も体験すると思いますので緩和ケアの充実を希望します。無駄な延命治療ではなく自分の意志で病気と向きあいたい。
- ・緩和ケアの番組をテレビでみました。もし自分がガンになったら、と考えるととても必要なことだと思います。もっとマスコミを通じて、世間にひろがれば良いと思います。
- ・地域によるケア・医療の質の差がなくなる様望みます。
- ・広く広報してほしい。
- ・「緩和ケア」を初めて知りました。医療的なこと以外に心のケアは特に大切だと思います。一緒にがんばれる人がいることで、生き方が変わると思います。死ぬときに、たくさんの人に感謝しながら死ねれば良いなあと私自身思います

- ・知っている人はまだまだ少ないと思うので、もっと積極的にアピールして、まずは多くの人たちに知ってもらえる事が大事だと思う。自分もよく知らない人のうちのひとりである。
- ・このたびアンケートが届いて、緩和ケアというコトバを知りましたが、このことがガン医療の中で、どのような役割をになうのかわからないので、その具体的な内容について知りたいので、早急に、TVや新聞あるいは、自治体の広報誌等を活用してPRしてもらいたいものです。
- ・患者の心の心配、不安ごとをとりぞくアドバイスがほしい。外出してはだめなのかとか、食事は何を摂取すると予防によいとか、がんにならない生活スタイルとは？など、様々な視点で、広報してほしい。
- ・治らない段階に来たら、痛みだけを取り、静かに有意義な時間を過ごすのがいいと思います。
- ・もう少し身近な活動があっても良いと思います。私の父は3年前に胃・肝臓がんにて他界しました。その時はモルヒネを使用し、病院に行っても、いつもうつら状態でした。最後にもう少し充実した日々を送りたかったと思います。緩和ケアを受けようにも近場ではなく金銭的負担もあり、出来ない状態でした。もう少し、「オレンジバルーンプロジェクト」を病院等でも取り上げて欲しいです。最愛の人と少しでも多く一緒にいられるように…お願い致します。
- ・「オレンジバルーンプロジェクト」という活動自体聞いたことがない。もっと浸透させるべきだと思う。
- ・オレンジバルーンプロジェクトという言葉を知りました。もっと身近な言葉になるように、普及させてください
- ・がんばって下さい。
- ・ガンで苦しんでいる患者さんが少しでも充実した日々を過ごす事が出来るよう願います
- ・初めて聞く言葉でした。もっと、もっと広めてわかりやすい情報を身近に知らせてほしい。
- ・今回のアンケートで初めて知りました。もっと認知を高めるにはテレビなどのメディアに多く取り上げられるべきだと思います。がんの不安がある人達や病にかかっている人や、その身内などは興味があり、ネットなどでも情報を得ようとするでしょうが、それ以外は自らの意志では知ろうとしないのではないかと思います。
- ・個人的には事業を知らない人の方が多いように思う。もっと様々なメディアを活用して世の中に認知されるようにすべき。
- ・PRなされてない様に感じます。その言葉さえ知りません。私自身いつ「がん」になるかわかりませんので不安がいっぱいです。☆このアンケート返信するのにずいぶん悩みました。本当にまともな所なのだろうかーと。台帳より選出されたという事ですがー。ちょっと不安でなっとく出来てませんがー。思い切って返信してます。もう、ハガキなどは出されない様に願います。
- ・がんの治療の薬品とが良くわからない。ケアに付いては自治体などで、勉強の機会を是非もうけてほしいです
- ・もっと一般の人々がこの事業の事を知る様に、又、この事業を利用できる様にして下さい。
- ・都会であろうが田舎であろうと、住んでいる所がちがっていても同じ緩和ケアが受けられて当たり前、と言う事になる様に呉々も願います。又少しでも気持ち良く日々が過せるそんな最後が迎えられればいいと思います
- ・今回のご縁がなければ、「緩和ケア」というものを知らないままでした。もっと身近に広まる活動を期待します。
- ・もし自分や家族がその場面に直面したとき積極的に医療関係者から情報提供してほしいです
- ・オレンジバルーンプロジェクトは、はじめて聞いた言葉です。メディア等で、もっととりあつかって、たくさんの人に知られるとよいですね。

- ・私はオレンジバルーン～。を知らなかったので、もっと宣伝して全国民に知ってほしい。この世からがんという病をなくしてほしい。がんの痛みも100%とれて、副作用がない様な薬を期待します。がんの早期発見ができるようになる事を期待します。宜しくお願いします。
- ・もっとTVや広告を！！講習会などを開いて下さい。
- ・「オレンジバルーンプロジェクト」という言葉をこの調査表を見て初めて知りました。こういった良い取り組みをもっと周知して頂き、誰れでも知っている言葉（内容も）にして頂きたいと思います。
- ・全国的に定期的に全メディアを使い、特集を組み継続していくこと。又、市町村単位で啓発活動を（市広報紙等で）行うこと
- ・期待出来るのは病院です
- ・「緩和ケア」という言葉を初めて聞いたので、マスコミ（新聞、テレビ）などを使って、活動内容を紹介してもらいたい
- ・今まで“緩和ケア”とゆう言葉すら知りませんでした。今回をきっかけにネットを通じてがんに対する興味を持ち、もっとたくさん知りたいと思うようになったので、身近で（TV等）いろいろな情報をもっと知りたいなと思いました。
- ・本人の意志によって受ける事が出来るならとても本人にとってありがたい事です
- ・どの病院に入っても受ける事が出来る事を期待します
- ・TV等で特集番組など、もっと放映してもらいたい
- ・“がん”という病気に対しての不安や対処法を自分の事となった時に、どこの聞けば良いのか、どこに行けば受けられるのか、という事が情報として身近にあってほしいと思います。身体だけではなく、心の痛みや不安をケアする事の普及を大切に考えて下さい
- ・「緩和ケア」を普及させるのであれば、このアンケートの封筒に緩和ケアに関するパンフレットを入れるなど、効率の良い方法をとってほしい。
- ・がん患者の肉体的、精神的苦痛を少しでも軽く出来る事業であって欲しい。又、金銭面でも、お金持ちしか受けられない様なら意味がない。皆が平等に気楽に受けられるものであって欲しい
- ・この活動は当事業者や、その周りになってから分かる様な気がします。もっと健常者で、H/Pに行かなくても普段の生活で、「あー、こういう活動もあるんだ」と分かる様に、色んな所に通知活動をされていかれるといいと思います。
- ・緩和ケアアンケートを受け取り、ガンが発見されてもおかしくない年齢だと改めて思いました。年齢が増す程人生には楽しみがなくなり不安は増していきます。健康面だけでも病気になっても不安を感じず、精神的に楽にできれば幸せな事だと思いました
- ・実際現時点でどの様な活動をしているのかわかりませんが、自身が「がん」と診断された時、自分だけで悩まずにすむ様、（家族にも相談するのは難しいと思うので）相談窓口を気軽に（←？）利用できる様に情報を広く伝えてほしい。主治医の考えによって知らなかった、なんて事にならない様に願います。
- ・今後はこのプロジェクトについての情報収集に意識してゆきます
- ・私の知らないことがたくさんあるようです。生命について、一人一人が大切に考え直すことのできるケアだと思います。多くの人に知ってもらうことは大切ですね
- ・まったく知りませんでした
- ・私の住んでいる所は田舎なので、都市部からするとこういう情報は遅れていると思います。ガン患者は地域は関係なく居るでしょうから、これからどんどん情報が広がってくれて患者さんの役に立てたらよいかと思います。

- ・「緩和ケア」という言葉をそもそも知らなかったもので、今回の質問の中にも、どこの項目にも考えが当てはまらないものがいくつもあった。特に、問7は知識がないので、ほとんどわからない。もっと、言葉を広く普及させること、ガン患者やその家族だけでなく、多くの人に周知させる必要があると思った。私自身、もっと知りたいと思った。
- ・身体と心（本人と家族）のフォローが今の日本ではまだまだ不十分だと思う。がんのみならず、もっといろいろな患者さんに対しても金銭も含め、病院に払う医療費以外のフォローも考えてほしい。
- ・がんなどの病での終末期医療の手段として、痛みを緩和することはとても大切であると思っています。体や心の痛みを少しでも少なくする事ができれば、病気に対する治療にも良い結果が期待できるのではないかと考えております。
- ・新情報がまとまりましたら一般市民に何らかの方法で提供して下さい。
- ・緩和ケアについて、以前たまたまほんの少し知る機会がありましたが、アンケートの内容だけでも『…そうなの?』という部分がありました。「オレンジバルーンプロジェクト」についてもっと詳しい情報を広く一般の人間が知る事の出来る取組みを期待します。
- ・緩和ケアのP. R活動を広くして下さい。緩和ケアの内容が分りづらい（質問7件オ～ケ）又、費用の件？
- ・患者本人だけでなく、その家族や周囲の人々の心痛等を柔らげるためのケアも同時に必要だと思います。特に本人に告知しない場合は、周囲の方々の精神的負担は図り知れないものがあると思います。
- ・三月義兄が亡くなりました。病院で緩和ケアを受け安らかに亡くなりました。近くにこの様な病院を探しておかねばと考えています。主人が前立線ガンの手術をうけ4年になり元気ですが年を考えるにつけ、何時も心がけねばならない事と痛感致します。
- ・オレンジバルーンプロジェクトそのものを全く知らないで、緩和ケアを普及するための事業とは思われない。もっと一般市民にアピールすべきだと思う。（経費を出来るだけかけない様に！！）
- ・地域住民に広く、わかる様に、新聞等、色々の面でアピールして載ければ幸いと思います
- ・広く、知識をわかりやすい言語で伝えて、誰もが正しい情報をもつようになることを願います。（「どう生きるか」は「どう死ぬか」と同じ意味であると思う。痛み苦しみの中で死を見送る家族は、本人同様の苦しみをもつと思う。）
- ・夫に付添って毎週検査と抗癌剤投与の為に病院へ通っていますが、必ず新しく癌であるか否かの検査を受けに来られる人が数名居られ癌患者は日毎に増えているように感じられます。夫は昨年11月あらゆる検査を受けてstage Nの末期膵臓癌で手術不能の告知を受けました。癌が出来た原因は不明とのことですが、自分が注意をして予防できるのであれば、広くその予防方法を一般市民に判かりやすくいろいろな方法で広めていただきたいと思います。まずは癌患者を作らないことだと思います。
- ・オレンジバルーンプロジェクト自体がわからないので申し訳けありませんがお答えすることができません。
- ・「緩和ケア」について、ほとんど知らないで、周知をすべきだと思います
- ・幸いにもガンの経験がないので良く答えることが出来ませんでした。もしその時にどう思うかで○をつけさせていただきました。
- ・最近まわりの人でガンになる人がふえてきています。私もいつなるかわかりません。妹がなったときは動ようし悩みました。今は、おばがこれから治りようをはじめようとしています。心身の

痛みをとりのぞけるものがあるのならおしえてほしいですので、情報をもっとくわしくもっと身近に提供していただければと思います。聞きやすい話しやすい環境もおねがいします。

- ・「がん対策基本法」聞いた事もなくなんのことですか？国が行う事は何ごとについても、国民のために思って実践されているのかよくわからない？下もじもの事をほんとうに考えているのか？信用出来ない。一般市民々と言っているが表面だけの様で中身が無いように思われる。[「緩和ケア」は何のために行うのか]ただ国が行うからやるのでは意味がないと考える。“がん～入院費等こまっている人々は多い緩和ケア～以前の問題？”
- ・緩和ケアや「オレンジバレーンプロジェクト」がどういったものなのかが、いまだにちゃんと理解できないので、まずはそれぞれがどういうものなのかが国民にしんとうする必要があると思う。
- ・私自身、医療事務の仕事をしていた経験のある者でも、緩和ケアに関する情報はほとんど持っていないのが現状です。もっと世間に広く知られるような広報活動が必要だと思いますし、知ることでも少しでもがん患者とその家族の身体と心両方で楽になれると思います。
- ・自分の事を書かせていただきます。私59才夫61才年金生活者です。認知症の介護5の94才の姑を自宅介護しております。姑の状態からでは受け入れ施設が少なくあっても経済的に負担が大きく自宅介護を決めております。年金生活者にとって選択出来る道はわずかです。もし夫が私がガンになったら緩和ケアを望みます。安心して選択出来るよう道を作っていただきたいです
- ・自分がガンになった場合は、QOLにたよっていきたいし、もし生命が短かくなってもよいと思うし、家族も助かると思います
- ・国民一人一人に特に中高年令者対象に広く深く浸透するように地方公共団体の広報、TV、新聞、雑誌等に情報提供を望み度い。私自身結構、各種の情報に興味を持ち目を通すとかTV等には注意を払っていましたがオレンジバレーンプロジェクトを見逃していた。
- ・具体的知識なく答えられません
- ・望めば誰でも手厚い緩和ケアが受けられる制度に育つ事を期待します。
- ・住んでいる地域によって情報や協力がたよらない事を願います。
- ・患者が求めている様なら、積極的に行なってほしいです
- ・緩和ケア、オレンジバレーンプロジェクトの言葉をもっと多くの人に知ってもらう事が大切、多くの人利用できるように認知度をまず高める事を期待したい。
- ・日本人の2人に1人がガンにかかってしまう時代です。おだやかでやすらかな終末期を過せるように、緩和ケアを行える施設（ホスピス、緩和ケア病棟）がもっともっと増えることを期待します。ガンにかかってから、知るのではなく健康なうちから知っておきたい。そして、上手に選択していきたい。
- ・その「NPO法人」そのものが、本当に存在し、サギ的な活動でなく本来の目的に使用されるかが不安です。私、個人としましては「NPO」という文字がついていると、逆に「あやしい団体」という認識があります。
- ・緩和ケアとは事例を含めて良い点とお互いに受け入れやすい環境づくりなど知ることができるよう普及に努力してほしいと思います。
- ・問7は、「緩和ケア」についてよく知らないなので、正しいと思うというよりそうあってほしいという意味あいをつけました。上記のプロジェクトは、病気そのものは治ゆの方向に向かわなくても、充実した生活が、送れるのであればすばらしいことだと思う。ぜひ、世間に広めて頂きたい。
(これはがん患者のみのプロジェクトなのではないでしょうか…?)
- ・分かり易い形でのPR活動を望む
- ・私の親戚や知人のかなりのひとが自身の考えも言えないまゝ病院のするまゝにまかせて、苦しん

で苦しんで小さくなって死んで行きました。以前苦しんでいる場に居合せて、モルヒネの打つ時間間隔の為、苦しんでいた姿は今も忘れられません。がんの種類や個人差もあると思いますが、回復治療とどちらかを選ぶのではなく、両立させる事はできないだろうかと考えるのですが、良くわかりませんが、がんの治療に緩和ケアをもっと近づかせて、取り入れて、人がなくなるまでの間を永く楽しく過せるかを在宅等を取り入れて行く治療方法に重点が置かれる様に、この事業の期待したいと思います。私の関係者が病院がおりますが患者さんは意識を下げられただけで、なくなっていくそうです。

- ・比較的若い世代、特に働きざかりな世代への認知が深められることを期待します。まずは知ること、知らないという人を減らすことが先決だと思う。知る人がいれば知らせることができる、広めることができる。そうすることで緩和ケアを受けようとする人たち、そして現時点で受けている人たちの何か助けになると思います。
- ・私は緩和ケアについてあまり理解出来ていないのもっとわかりやすく情報が伝わると思った
- ・(祖母の話ですが)在宅でのホスピスケアを診察先の病院や担当医から勧められ(→本当は本人の意志が最重要視される気がするのですが…)でしたが、正直、本人、家族はとまどい、不安になる事が多く「病院に入院して安心したい」気持ちが強くあった事を覚えています。慣れ親しんだ家で看取られたい看取りたいという理想と、いくら地域の中でケアに対するチームが組まれていたとしても、本当に細かく教えて頂いたり説明してもらえないと、分からない事だらけで、「緩和ケア」以前に不安になる事が多い気がします。今後、きっと在宅におけるケアが中心となってくると思うのですが、もっと対象になる方に分かりやすく、不安になる要素を減らせるような支援をして頂けるとありがたい気がします。よく分からない文でスママセン！！
- ・安楽死も認めてほしい。
- ・患者本人が痛みをやわらげ緩和出来るのならそれは賛成ですが費用の面で保健が適用するのが心配です。私も身内でがんで亡くしているので苦痛を緩げるのは一番だと思います
- ・何か期待する事があれば？期待するも何も【オレンジバルーンプロジェクト】なるものの存在すら今回始めて目に～自身が現在週3回の(ラウンド)をこなし、70、80代の方達との交流もあり、それぞれに病いを抱え乍らも、元気な姿に接し正直(がん)に対する知識も漠然としたもので今回の(アンケート)機会を得た事で改めて真摯に向き合わざるを得ないという事を痛感しました。
- ・よろしくお祈りします。期待しています。
- ・まずは「オレンジバルーンプロジェクト」の活動について調べてみます
- ・詳しくわかりません。強勉強不足です。もっと色々な事を知りたいです
- ・はじめて聞く情報だったので、アンケートにも答えにくかった。本当に良いものであるのなら、年齢に関係なく、もっと分かりやすく伝えるべきだと思う。何かが分からないと期待もできない。
- ・身近に患者や緩和ケアを受けた人がいない限り知る人も少ないと思います。メディアなどで、もっと取り上げていただけるとありがたいです。
- ・医療機関で、緩和ケアについて、必要な人には説明する。テレビCMで、又はラジオ、新聞広告で、広く一般の人に解りやすく広報する。必要な人にはなるべく低料金で提供する。
- ・多いに期待します
- ・「緩和ケア」初めて「目」にしました。身近な人ががんにかかった人は、知っているのかもしれませんが、広く知られるように活動して下さい。又、「緩和ケア」名前が良くないんじゃない！
- ・もっとくわしく緩和ケアについて知りたいと思う。問7も正解がわからず今後不安

- ・もっと広報活動をして欲しい。医療機関において麻薬の使用を積極的に行って欲しい。自分の父親のガン治療を見て感じました。さらに自分がガンと診断され、回復の見込みがない場合は、延命治療は断り、緩和ケアを希望する。
- ・企業内（職場内）での指導がおこなわれるように各企業（職場）に指導・はたらきかけをおこなう。
- ・病院内などの広告、それ以外の場所でも多くの人の目につくものがあり、言葉の意味を一般の人にも知ってもらいたい事からだと思います。
- ・専門看護師の育成にもっと力を入れて欲しい。現場では専門看護師が育つまでには時間とお金がかかり、個人ではなかなかできない。認定看護師でなくてはわからないことが沢山あります。認定看護師により啓発した医療現場や地域の人々に情報を知らせて欲しい。そして癌で苦しむ方々を早く精神的に楽にさせてほしい
- ・緩和ケアはがんの終末期に行うもの、というイメージがまだまだあるので、新聞やテレビなどのメディアを通して、患者のQOLを向上させ、病気を改善するものであるということを啓発して行ってほしい。また、緩和ケアが広く一般に行なわれ、「がん＝痛み」というイメージが払拭されることを期待している。
- ・「オレンジバルーンプロジェクト」というもの自体があまり知られていないと思うので、一層のPR活動などで、まずみんなに知ってもらいたい事から始めるのが良いと思う
- ・緩和ケア自体が何なのか？5W1Hに基づいた説明が必要。また医療との連携はどうか？何なのか全く知識がない（問7はあるべき姿）を書いた。本当に必要なら義務教育のカリキュラムに組み込むべき。食育との関連も大きく広い目で見ればありそう。がんの予防としての。
- ・患者の療養生活の質の向上の為医療従業者のみならず、以外の色々な人々の協力が得られますように期待します
- ・いいもわるいも、もっと広く知ってもらいたい必要があると思う。がんと診断されてからではなく、世の中の常識として、学び知っておく、考えておく必要があると思う。将来がんになる確立からいっても、堂々と世の中にアピールすべき事だと断言できる。
- ・身体と心は一本であることに対する配慮が医療の現場では足りないことが多いと考えています。死についても積極的に勉強することで、いたずらに死を恐怖と捉えなくなり、結果身心に安定をもたらすのではないかと思います。心が安定し平和であれば、身体状況にも必ず好影響を及ぼすはずです。
- ・ひとりひとりが、人としてより苦痛を伴わない、その人らしく日々を送ることができるための選択肢があることを暮らしの中で自然に知っていく機会を地道に作ってください。新聞とTVの特集は、私のまわりの人にも注目すると思います。
- ・低所得の方も緩和ケアを受けられるような体制を作ってほしいです
- ・「緩和ケア」について何も知らないのを回答しにくい点があった。アンケートの質問項目が「緩和ケア」が世間に周知されていないことを導き出そうとしている意図があるように思えた。「緩和ケア」に対する情報発信が足りないように思う。以上
- ・緩和ケアについて具体的に理解できるような広報活動（TVなど）を行って欲しい。又、地域においても勉強会やセミナーなどがあると良いと思います。言葉は知っていても具体的なことはわからないことが多いと思います。
- ・まったく知りませんでした。テレビや雑誌などもっと情報をして下さい。
- ・積極的にすすめて下さい
- ・正しい理解を深めるPR、教育を強化してほしい

- ・がんばって下さい
- ・もっと宣伝して誰もがわかるようになってほしい。ネットも良いと思うが高齢者になると一部の人が見えていないと思う。テレビ・新聞・ポスターなどが見やすいと思います。とにかく、情報を知る機会が当人や家族が一番ほしいと思います
- ・父が終末期、自宅で過ごしさいごを自宅でむかえました。さいわい痛みはさいご以外はたえられる（たえた）程で本人の意志により、モルヒネ等は使用せずおえました。家族で支えあい、あたたかい時をすごしましたが、本人の死への恐怖は相当のものだったと思います。その部分、すこしだけでも恐怖がやわらげたらまた自宅で過ごす上でのこわさが軽くなるとよいです
- ・緩和ケアという言葉などは知っていましたが「オレンジ…」は今回のアンケートで初めて知りました
- ・緩和ケアというものを知らない人が多いと思うので頑張ってください
- ・私の友人ががんで二人亡くなりました。最後まで様子を見ていたので、大変死というものに残こくたと思いましたが、二人共たくましく病気と戦っていらっしやいました。私にはそんな強さはありません。そのような素晴らしい活動をされている組織があることに安心感を覚えます。是非心のケアに力を入れて下さい
- ・もっと広報活動を積極的に行い、緩和ケアやホスピスなどのことを詳しく知る機会を作してほしい。
- ・リボンマグネットの様にチャリティーで一般人が参加できるグッズなどあればぜひ参加したいです。
- ・近くに大きな病院がありますが、緩和ケアと言うことは最近テレビで知りました。患者さん1人1人に対して身近かなものであってほしいです
- ・緩和ケア＝がんの治療にかかわる事というのがわかりにくい。その道のプロの方、実際に治療されている方にとっては「ガン」にかかわる言葉なのがあたりまえかもしれないが、一般に広く知らしめようとするなら主語が必要だと思う
- ・「オレンジバルーンプロジェクト」を知らないのもっと皆に知られるようにテレビや新聞で教えて欲しいと思います
- ・まわりにがん患者がいなくて本音のところよくわかりませんが、いろんな方面にもっともっと伝えていって自分の事として考えていけるような社会になるといいと思います
- ・緩和ケアを希望する人が、誰でも平等に受けられるような公的支援制度を設けるよう、行政に提案してゆく（今年、友人がガンで亡くなった。彼女は早くから緩和ケアを望んでいたが費用の点で諦めざるを得ず、苦しみながら亡くなったのを目の当たりにした）
- ・世に広めてほしい。
- ・県、市の公協の病院などで聞けると良いと思います
- ・以前と違ってがんを患っても隠す人が少なくなっていると思う。がんを認め、自分に出来る事、得られる情報、他の人の意見など、様々考え、前向きな人が増えた。オレンジバルーンプロジェクトも、ますます皆に必要とされる事業だと思う。がんと共に生きる為にも全ての皆に認知される組織になって欲しいと思います
- ・最近、横文字が多く、意味がわかりません。オレンジバルーン…についてわかる人はいるのでしょうか？
- ・もっと広く知られる様に活動をしてほしい。分かりやすい活動と、多くの施設の開設
- ・全く知らなかったもので、TVなどでの告知で、広く知れわたると良いと思います。
- ・広く万人にわかりやすく認知される様、PR活動を行って欲しい。緩和ケアの技術等、それに従

事する人々の向上を願う。

- ・このアンケートが届いたことで緩和ケア・オレンジバルーンプロジェクトというのを初めて知りました。
- ・あまりオピオイドにたよらない緩和ケアが望ましいと思います。針灸など東洋医学も含めた治療をもっと推進すべきかと
- ・緩和ケア自体の意味が解らないので、資問に答えるのは少しむずかしい。
- ・ガンの方の心の痛みが少しでも和らげれば良いと思う
- ・「緩和ケア」という言葉を知らなかったなので、テレビやインターネットなどでより情報を流してもらいたいです。
- ・両親をがんで亡くしています。最後はとてつらい別れになりました。人として人間らしく、最後を迎える為に、是非医療関係者にも緩和ケアを患者さんに進めるような診療体制ができれば良くなりそうな気がします。まだまだ、お医者さんは、治療を進める事を優先して、なかなか緩和ケアを進めていただけないような気がします。患者に選択できるような、治療体制を切に希望します。
- ・そういった事業があるということを知りませんでした。「オレンジバルーンプロジェクト」という名前だけでは、聞いても何をしているのかも分からないと思います。身近な場所（駅、街中など）でポスターなども目にする機会があれば少しずつ普及するのではないかと思います。
- ・経済的に裕福な階級の人達だけが受けられるというのではないサービス。誰もが受けられる権利であってほしいです。
- ・初めて聞く言葉です。もっとTVや広報、雑誌などでアピールしてもいいのではないかと思います。（老人はインターネットを使わない方が多いので多くの方に知ってもらう為に）
- ・はじめて聞く言葉であり、内容も詳しく知らないため、広報に力を入れてほしい。
- ・緩和ケアをどんどん広げて行ってほしいです。
- ・情報の徹底化
- ・緩和ケアにたずさわる人は、本当に心から人の気持ちを考えられる人だけについてほしい。資格のみが重要ではないと思う。自分だったら心からやさしい人にしかケアしてほしくない。
- ・緩和ケアによって患者さんが救われる事を祈って居ります。
- ・限られたHPのみでなく、幅広い分野でだれでもが知っている事ができるようにしてほしいです。医学は、医者だけでなく、心のケア、薬も抗癌剤にたよるのではなくもっと広い視野（代替医療）の分野も医師が研究し、認められる事を願います。そういった事で心の安心、信頼を得てこそ、このプロジェクトも生かせるのではないのでしょうか
- ・もっとこの事業を国民の多数に知らせる必要がある。あまり知られていないのでは？
- ・ガンという病気は健康な人にとっては「自分はならないだろう」といった類の考えを抱いてしまうような病気で、非常に感心を持ちにくいときいたこともあります。だから、緩和ケアというと様々な偏見を抱かれている方も多いため、その考えを訂正してもらいたいのが1つ。2つ目は、医療用語を用いないで一般にこの緩和ケアというものを伝えてもらえると、とっつきもよく、関心も持ちやすい（物事はいくらかでも難しくできる）ので、一般に浸透しやすいと思います。そしてOrange Balloon Projectには一般人と医療人のかけはしになって頂きたいと考えます。拙文ですみませんでした。
- ・もっと良く解る様にしてほしい
- ・緩和ケアとかオレンジバルーンプロジェクトの言話を知らないのですみません
- ・多くの人が参加してほしいです。

- ・普及を望む
- ・私は幸せにもガンに直面することなく来ました。これから先のことは解りませんがこのアンケートを機に自分のこと大事に生きなければと思っています。緩和ケアプロジェクトの方々の一層の御尽力をお願いいたします
- ・もっともっと人々に普及するように知らせていってほしい。いろいろな場面で目に出きるようにアピールしてほしい。活動を期待しています。
- ・わかり易く、家族や患者本人の不安を具体的に一般の方にも広めてほしい。「緩和」ということば自体わかり辛い気がします
- ・病める人、どうする事も出来ない。苦しみ、なやみ今後よろしくお願い致します
- ・情報をすんなり受け入れる媒体は人によって異なると思います。聞く、見るの両面からのアピールが必要だと思います
- ・私が無知のせいもあるのですが、その様な事業があることすら知らなかったのも、そんな人達も沢山いると思うのもっとわかるような取り組みをしてもらいたい
- ・だれでも緩和ケアを受けれるようにその為にはだれでも選択の1つとて考えられるようにわかりやすく情報を流してほしい。
- ・知らない人の方が多いと思うので情報が広まりみんなが当たり前のように知ることが大事でとても必要でいい事業だと思います。
- ・一人でも多くの人々に広く知ってもらえる事を願って、今後の皆様のご活躍を期待しております。頑張ってください。
- ・気軽に情報が得られる様になるとよい
- ・心のケアをふくめて、多くの方々に知ってもらい、受ける方も安心してまかせられる事業にしてもらいたい。ご苦労様です。ありがとうございました。
- ・オレンジバルーンプロジェクトについて余りPRがなされていないのではないかと。種々の手段によりPRすべき。
- ・私には弟がいて水ぞうガンで半年ももちませんでしたでしたが生活がはなれていた為一部しか見えませんでした。ホスピスがありました聞くだけで入院できませんでした。もっと情報が身近かにあり知識があったらとくやみます。
- ・実際に自分の祖父母が肝ガンで痛そうにしているのを目のあたりにしてきていますので、もっと一般に普及して痛みのない治療、終末をむかえられる方が増えるとよいと思います。もし自分が当事者になった場合や家族がガンになった場合、諸事情により出来な場合以外は「緩和ケア」希望したいと思っています。
- ・もっと広く人々にアピールしてほしい。
- ・名前が横文字だと、高齢者の方々がわかりにくいと思いますが…。簡単な事業名を考えなおすことから…を期待したいです。
- ・がんばってください。
- ・もっと今まで以上に普及活動を頑張ってください。
- ・返信遅れてすみません。これからはがんに苦しむ方々のため、がんばってください。
- ・若い世代の人への普及もするべき。TVCMで言葉を広めるとか、新聞でとりあげるとか。
- ・すばらしい企画だと思います。24才の時母を胃癌で亡くしました。その時にこういう企画があったらと…これから益々、日進月歩で癌患者にとって残された人生を納得して（こわがらず）終えられるのではないのでしょうか？期待しております
- ・がんに関わらず、疾病に対して緩和ケアは必要だと思います。私はすべての病気の予防に取り組む

ことを毎日の仕事の中で感じており、実行に向けての支援をしています。常に今さらでなく今からでも遅くないと…

- ・緩和ケアは本人だけの希望ですか？家族か本人に告知（知らせない時）は、家族に対しての精神的ケア…はあるのでしょうか？
- ・この用紙がお送られるまでは、私の家族にガンになったのが義父だけであまりガンの痛みで苦しんでいるのを見た事はありません（同居でしたが）。周りの人には苦しんでいる人を何人か見てきましたが、本当に自分の身にかかっていないので関心もなく本当に人事でしたが、ガンになっている人もそうでない人も、もっと緩和ケアに取り組んで勉強をして一人でも苦しんでいる人の相談になれたり少しでも役に立てるようになれば良いと思います
- ・事業の発展を期待します
- ・私の住む市では難しい癌の場合対応できず、車で1時間半の〇〇まで行かなくてはなりません。〇〇では緩和ケア病棟で数人の知人、友人が手厚い看護のもと家族に見とられて亡くなっていました。緩和ケアの重要性は痛感していますが、それが地元で家族友人がしょっちゅう見舞いに行ける状況で為されるべきだと思います。心のケアで一番大切なのは家族の情愛です。緩和ケアにおける地域差をなくすことができたらと願います。医療従事者の意識も大都市と僻地ではどうも差があるようで、地域でももっと緩和ケアの勉強会をして頂いたら、医師、看護師の患者さんへの対応、心遣いも変わってくるのではないのでしょうか。末期癌患者のQOLを考慮してくれる地元の病院があれば、私は迷わず我が家の近くで生をまっとうしたいと思います
- ・薬物の適正な処分によるQOLの向上は、ガンに限ったことでないので、普及に向けてがんばって欲しいです。
- ・今の時点では何ともいえない。そういった経験をしてみないとわかりませんが、知識として色々知りたいです。
- ・がんになってからよりもなる前の検診などにも力を入れて欲しい。もっと気軽にかんたんに検診を受けられれば…
- ・心のケアは難しい。当事者が若いほど、悩みは不安が大きくなるから。どんな人でも同じようにケアを受けられる様、制度を充実してほしい。
- ・多くの患者さんが少しでも苦しみをやわらげるように期待します
- ・去年母を在宅（訪問看護）で看取った者です。それは母の希望でもありましたが、最期は厳しいものでした。普段は飲み薬・座薬で疼痛をコントロールしていましたが、遺書からかなり我慢していた事が判りました。深夜激痛に見舞われ訪問看護師に連絡を取ったものの、モルヒネは鍵のかかった別所にあるという事で、いつもの倍もの時間、駆け付けにかかりました。医療用麻薬で個々の看者に見合ったコントロールが出来るのは余程修熟した医師で、まだまだ不足していると思います。近年高齢人口の増加で、病院（入院）から在宅療養へと流れが推進されていますが、自宅での介護者不足、訪問診療可能な医師数不足。しかもがんとなると、本人がどこまでその厳しさを知っているかによって、周囲の勧め方（緩和ケア）にも困難が伴います。“オレンジバレーン”という、一見何の事やら判らない命名も多分そこも含んでの事なのでしょう。緩和ケアの正しい知識普及の為にという趣旨には賛同出来ても、まだ受け皿が整ってない段階での在宅への動きに加速させるものではあってほしくはないです。がんも種類によってはペインコントロールで眠る様に逝ける場合もあれば、そうでない事もあるという事。訪問診療で死亡診断書を書くに10万円という報酬になるという事。（その都度、最後の危急の際にも病院搬送でなく自宅で看取る事を奨められてたのか…）等の現実の問題点も明確にさせながらの普及啓発事業であって戴きたいと望みます

- ・御苦労様です。
- ・がんにより2人の伯母を亡くしました。痛みなども見てきましたが、体だけでなく、不安など心の痛みも相談できればと思いました。家族、親類には言えない事もあったかな?とも思いました。現在、脊椎骨折により、身体障害2級、要介護の主人と2人暮らし、痛みにたえ(1日ボルタレン50mm2~3個)生活しております。がんだけでなく、色々な病気の方でもケアが受けられれば幸いです。これからもがんばって頂きたいと思います。返信が大変遅くなり申しわけございませんでした。
- ・経験、知識等がないので、えらそうな事はいえないですが身体の痛みは心の痛みにも直結していて人間的生活に大きな影響があると思う。痛みが和らげると不安がとれ考え方も変わって、いい方向に行くのではないのでしょうか…。ただ薬剤の情報(副作用)を詳しく知る必要性があるだろう…。遅くなり大変申し訳ございません
- ・緩和ケアを望みつつも麻薬の副作用がどの程度か不安がつきまとうものだと思う。間違った認識であるならば、やはり広く情報を提供してもらいたいと思う
- ・患者さんの受ける心身の痛みは残念ながら本人もしくは経験者しかわからないと思います。自分が経験して感じた事ですが、まず患者さんの緩和ケアはすごく重要な事だと思いますが残念ながら大切な人をガンで亡くした家族の心のケアをする施設があればいいなと思いました。あと緩和ケアを特集したTV番組などあればすごく普及するのが早くなると思います。誰もが知っていると言った物にならなければ何の意味ないとは僕は思います。最後に誰も苦しみながら死んでいく家族の姿など見たくないと思います。大変なプロジェクトだと思いますが頑張って下さい。
- ・「緩和ケア」については、事業内容などをPRし、広く国民に周知することが必要であると考え
- ・医療の知識や、選択は(地方もしくは年齢に対応して)基本的に得ることはむずかしいです。倫理観に立って理想的に行っている活動ならば応援します。ただ、その情報は少なく、私ども地方にいる人間は存在すら知りません。がんに対して厚生労働省の薬に関する認可の遅さや、実働の医療機関との温度差に対しては、認識しております。がんの治療に少しでも良い働きが、この日本の医療の変化、改善に期待します。
- ・QOLの向上は、患者にとって必須だと思っています。(私の祖母はがんで亡くなりましたが、当時の治療には“緩和ケア”などなく、末期がんであったにもかかわらず、非常に苦痛をとまなつたと今でも思っています。) これからも広く一般の方に知ってもらおうよう、活動をピーアールしてほしいです。
- ・緩和ケアが行える病院の数を増やしてほしい
- ・「緩和ケア」も「オレンジブループロジェクト」も正直、全く知りません。良い事であれば、どんどん広めてもらえればと思います。
- ・答えに反しますが緩和ケアを普及させる以前にガンにかからない健康療法をもっと広くの人達に学んでもらえる様にする事が大切であると思う
- ・病院のベッドで最後をむかえるよりも、好きな場所で好きな人達と最期をむかえる事は、とても有意義だと思う。みんなに普及する様にごんばって下さい。期待してます。
- ・がん=死というイメージを拭い去ってほしい。
- ・期日を過ぎてしまい申し訳ありません。
- ・ピーアールが必要と思う。
- ・がん患者本人だけではなく、その家族も精神的にも肉体的にも大変になってくると思うので、一緒にケアしてあげて欲しいです。

- ・もっと広く知られるようにアピールしてほしい。
- ・返信が遅くなりました。申し訳ありません。アンケートを読みながら、ホスピスに会いに行った友人を思いました。友人はとても苦しんでいました。皆様の活動を期待しております
- ・緩和ケアが医療側の都合によって選択／非選択されることのないよう期待したい。